令和7年度　下高城集会所建築工事
実施設計図　2025.01

図面リスト（原図サイズはＡ３）

意匠図

通し番号	図面番号 A	図面名称	SCALE (A3)	通し番号	図面番号 A	図面名称	SCALE (A3)
1	1001	工事概要書	ー	30	3003	矩計図-3	1:30
2	1101	建築工事特記仕様書1	ー	31	3004	矩計図-4	1:30
3	1102	建築工事特記仕様書2	ー	32	3101	平面詳細図-1	1:50
4	1103	建築工事特記仕様書3	ー	33	3102	平面詳細図-2	1:50
5	1104	建築工事特記仕様書4	ー	34	3201	展開図-1	1:50
6	1105	建築工事特記仕様書5	ー	35	3202	展開図-2	1:50
7	1106	建築工事特記仕様書6	ー	36	3203	展開図-3	1:50
8	1107	建築工事特記仕様書7	ー	37	3204	展開図-4	1:50
9	1108	建築工事特記仕様書8	ー	38	3205	展開図-5	1:50
10	1109	建築工事特記仕様書9	ー	39	3206	展開図-6	1:50
11	1110	建築工事特記仕様書10	ー	40	3301	天井伏図	1:100
12	1201	案内図・敷地求積図	図示	41	4001	建具表-1	1:100
13	1202	現況図	1:200	42	4002	建具表-2	1:100
14	1203	仮設計画図	1:200	43	4101	建具枠廻り標準図	図示
15	1301	配置図	1:200	44	4201	標準詳細図-1	図示
16	1302	建築面積・延床面積求積表 平均地盤面算定図、法規ﾁｪｯｸｼｰﾄ	1:200	45	4202	標準詳細図-2	図示
				46	4203	標準詳細図-3	図示
17	1303	仕上凡例・外部仕上表・内部仕上表	ー	47	4301	部分詳細図	1:20
18	2001	平面図	1:100	48	4302	屋根詳細図	図示
19	2002	屋根伏図	1:100	49	4401	雑詳細図	図示
20	2101	立面図-1	1:100	50	4402	雑金物姿図・サイン図	図示
21	2102	立面図-2	1:100	51	4403	家具図-1	1:40
22	2201	断面図-1	1:100	52	4404	家具図-2	1:40
23	2202	断面図-2	1:100	53	4501	調理室機器リスト	-
24	2301	断面詳細図-1	1:50				
25	2302	断面詳細図-2	1:50				
26	2303	断面詳細図-3	1:50				
27	2304	断面詳細図-4	1:50				
28	3001	矩計図-1	1:30				
29	3002	矩計図-2	1:30				

外構図（別途工事参考図）

通し番号	図面番号 Z	図面名称	SCALE (A3)
1	Z-01	外構平面図	1:200

構造図

通し番号	図面番号 S	図面名称	SCALE (A3)
1	S-01	構造特記仕様書	—
2	S-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図	—
3	S-03	木造特記仕様書	—
4	S-03A-1	木造金物標準納まり図（1）	—
5	S-03A-2	木造金物標準納まり図（2）	—
6	S-03A-3	木造金物標準納まり図（3）	—
7	S-04	地盤調査図	—
8	S-04A	地盤改良仕様書	—
9	S-04B	柱状改良伏図	1:100
10	S-05	基礎伏図	1:100
11	S-06	土台・柱・梁伏図	1:100
12	S-07	母屋・垂木伏図　部材リスト	1:100
13	S-08	軸組図-1	1:100
14	S-09	軸組図-2	1:100
15	S-10	軸組図-3	1:100
16	S-11	軸組図-4	1:100
17	S-12	軸組図-5	1:100
18	S-13	壁量計算図	1:200
19	S-14	柱頭柱脚金物計算表	—

電気設備図

通し番号	図面番号 E	図面名称	SCALE (A3)
1	E-01	電気設備工事特記仕様書	—
2	E-02	配置図	1:100
3	E-03	盤結線図	—
4	E-04	照明器具参考姿図	—
5	E-05	電灯設備平面図	1:100
6	E-06	コンセント設備平面図	1:100
7	E-07	弱電機器（呼出設備）参考姿図	—
8	E-08	弱電設備平面図	1:100

機械設備図

通し番号	図面番号 M	図面名称	SCALE
1	M-01	機械設備工事特記仕様書	—
2	M-02	空気調和・換気設備平面図 機器ﾘｽﾄ	1:100
3	M-03	給排水・ガス設備平面図・器具表	1:100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A ― 00
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	表紙・図面リスト	縮尺	-（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

工　事　概　要　書

1. 工事名称その他

工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	建築主（発注者）	色麻町長　早坂　利悦	建設地 地名地番	宮城県加美郡色麻町高城字宮14番地1	主要用途	地区集会所	工事種別	（ 新築 ・ 増築 ・ 改築 ・ 模様替 ・ その他 ）

2. 敷　地　状　況

敷地面積	都市計画区域	用途地域	防火地域	道路種別幅員	都市計画道路	規制地域の指定	その他の許可届出等（根拠法令等・届出・許可番号・年月日）
1,111.97m2	・内　・市街化区域 ・市街化調整区域 ⊙外	・有 ⊙無	・防　火 ・準防火 ⊙無（法22条地域）	都市計画区域外のため接道義務なし	⊙無・計画決定・事業決定 ・名称幅員 ・処置	・騒音規制 ・振動規制 ・その他	

3. 構造・規模面積

	計画部分	計画以外の部分	合計	棟名	構造	基礎工法	階数	建築面積	床面積 1階	階	階	階	階	合計
建築面積	244.70 ㎡	39.02 ㎡	283.72 ㎡	地区集会所	木造	ベタ基礎	1	244.70 ㎡	233.13					233.13 ㎡
延べ床面積	233.13 ㎡	39.02 ㎡	272.15 ㎡					㎡						㎡
増築予定 ・有 ⊙無								㎡						㎡
								㎡						㎡
								㎡						㎡

4. 法規制概要

項目		計画実施概要	規制概要	備考（参照図面等）
一般事項	建ぺい率	25.51%	規制なし	-
	容積率	24.47%	規制なし	-
	斜線制限　道路	—	—	-
	斜線制限　隣地	—	—	-
	斜線制限　北側	—	—	-
	斜線制限　（日影規制）	—	—	-
	最高の高さ	5.454m	—	A-2301
	最高の軒の高さ	3.150m	—	A-2301
	床高	ベタ基礎	直下の地面から300以上	ベタ基礎緩和
	地域・規模等による構造（耐火・準耐火）	—	—	—
一般構造及び設備規制	階段　幅員（踊場）	—	—	—
	階段　蹴上・踏面	—	—	—
	階段　手摺高	—	—	—
	屋上広場等の手摺高（バルコニー含）	—	—	—
	有効採光面積	法規チェック表による	1/20以上	A-1302
	居室の換気	法規チェック表による	1/20以上	A-1302
	避雷針	不要	—	—
	便所・浄化槽	-	-	-

項目		計画実施概要	規制概要	備考（参照図面等）
防火規制	屋根	不燃材	不燃材または認定品	法22条
	延焼のおそれのある部分　外壁	準防火性能	木造建築物は準防火性能	木造部延焼範囲有
	延焼のおそれのある部分　（軒裏）	—	—	—
	延焼のおそれのある部分　開口部	不要	防火設備	木造部延焼範囲有
	防火区画　位置	—	—	—
	防火区画　構造	—	—	—
	防火区画　区画部の外壁	—	—	—
	貫通部の処理	—	—	—
	開口部に設けられる防火設備（開口部設備）	—	—	—
	開口部設備 感知器とその位置	—	—	—
	内装制限	準不燃材料	準不燃材料	火気有り
避難規制	廊下の幅員	—	—	—
	階段の数及び種類	—	—	—
	階段までの歩行距離	—	—	
	排煙	法規チェック表による	1/50以上、天井から800	A-06
	非常用照明	—	—	—
	非常用の進入口	—	—	—
	敷地内避難通路	—	—	—
	非常出口の解錠方法及び表示	—	—	—

項目	計画実施概要	規制概要	備考（参照図面等）
消防規制（三項） 防炎防火対象物	カーテン、カーペット等	全て	—
消火器	調理室　1ヵ所	火気使用または、S≧300m2	—
屋内消火栓	不要	S≧1000m2	—
自動火災報知設備	不要	S≧1000m2	—
非常警報設備	非常ベル	50人以上	—
誘導灯・誘導標識	不要（150m2未満）	避難口、通路誘導灯の設置	—
その他			

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1001
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	工事概要書	縮尺	—（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

建　築　工　事　特　記　仕　様　書　【令和６年４月版】

Ⅰ　工　事　概　要

1　工事番号・名称　令和7年度　下高城集会所建築工事
2　工　事　場　所　宮城県加美郡色麻町高城字宮14番地1
3　用途地域等
　都市計画区域（・　内　⊙　外）　用途地域（　　）
　防火地域等（・　防火　・　準防火　・　指定なし　⊙　２２条　）
　その他の地域・地区（
4　主　要　用　途　地区集会所
5　敷　地　面　積　1,111.97m2
6　工 事 の 概 要　建築工事　電気設備工事　機械設備工事　給排水衛生設備工事

7　別 途 工 事　解体工事　外構工事

8　そ　の　他

9　特記仕様書の範囲
　特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の○印もので構成する。
　⊙　構造特記仕様書　・　外構工事特記仕様書　・　植栽工事特記仕様書
　・　解体工事特記仕様書　⊙　電気設備工事特記仕様書　⊙　機械設備工事特記仕様書
　・　　・

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様

1．共通仕様
　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。ただし、標準仕様書に記載されていない事項は、「公共建築改修工事標準仕様書（令和4年版）（以下「改修標準仕様書」という。）「公共建築木造工事標準仕様書（令和4年版）」（以下「木造標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」(以下「解体共通仕様書」という。）による。　なお、施工条件明示書は、特記仕様書に含める。
2．特記仕様
　1）項目は、番号に○印のついたものを適用する。
　2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
　3）特記事項に記載の（　）、＜　＞及び［　］内の表示番号は、それぞれ「標準仕様書」、「改修標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	①．一般事項	⊙　工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合は、監督職員に報告の上，指示に従うこと。 ⊙　受注者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ⊙　施工体系図を現場に掲示すること。 ・　工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　※　図示
	②．適用基準等	⊙　建設工事執行規則(昭和39年3月宮城県規則第9号) ⊙　宮城県建設工事元請・下請関係適正化要綱 ⊙　建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和4年版） ⊙　営繕工事写真撮影要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部 令和5年版）及び工事写真撮影ガイドブック＜建築工事編及び解体工事編＞ （国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和5年度版） ・　建築構造設計基準（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和3年版）
	3．概成工期	工事工期より　　日前　(1.2.1)
	④．工事実績情報(CORINS)の登録	※　適用する（請負精算額が500万円以上の場合）　(1.1.4) 受注時、変更時及び工事完成時にあらかじめ監督職員の確認を受け、契約締結後及び工事完成後の10日以内に登録手続きを行い、工事カルテの受領書を、監督職員に提出すること。 ・　適用しない
	5．発生材の処理等	発生材の処理　(1.3.11) ・引渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） 受入れ施設名・所在地(km) ・再生資源化を図るもの

種　類	受入施設名	所在地 (Km)	備　考
・　セメントコンクリート塊			
・　アスファルトコンクリート塊			
・　建設発生木材			
・　建設汚泥			

・現場において再利用を図るもの（　　）
・その他の廃棄物（安定型)(　　)
受入れ施設名・所在地(km)
・その他の廃棄物（管理型)(　　)
受入れ施設名・所在地(km)

上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること。

⑥．電気保安技術者　・　適用する　※　適用しない　(1.3.3)

⑦．事故報告　(1.3.9)
　工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，監督職員から指示があった場合は「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。

⑧．建築材料等
材料の品質等　(1.4.2)
　本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし，その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
　特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　(1.4.1)
　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

ホルムアルデヒド仕様
　使用する材料のホルムアルデヒド放散量は、次のとおりとする。
　ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合の建築材料
　　1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
　　2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
　　3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
　　a．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
　　b．接着剤等不使用
　　c．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
　　d．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
　　e．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

⑨．室内の空気中の化学物質濃度の測定
※　ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定　(1.5.9)
　試料採取及び測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」の新築住宅の例に準拠するほか，拡散方式ではサンプラー製造所の定める仕様により行う。

測定対象物質 ※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　(濃度指針値　100μg/m3 ・ 0.08ppm)
※ ﾄﾙｴﾝ　(濃度指針値　260μg/m3 ・ 0.07ppm)
※ ｷｼﾚﾝ　(濃度指針値　200μg/m3 ・ 0.05ppm)
※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　(濃度指針値　3,800μg/m3 ・ 0.88ppm)
※ ｽﾁﾚﾝ　(濃度指針値　220μg/m3 ・ 0.05ppm)
※ ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ(濃度指針値　240μg/m3 ・ 0.04ppm)
※ ﾃﾄﾗﾃﾞｶﾝ　(濃度指針値　330μg/m3 ・ 0.04ppm)
※ ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　(濃度指針値　48μg/m3 ・ 0.03ppm)
※ ﾉﾅﾅｰﾙ　(濃度指針値(暫定)41μg/m3 ・ 0.007ppm)

測定する室等：（会議室）

採取方法：吸引方式又は拡散方式とし，拡散方式では８時間採取する。

測定結果等報告書の提出
　次の事項を記載した報告書を１部提出する。
　a 測定結果
　b 試料採取時の状況（気温・湿度（室外・室内），天候，風の状況，日射直入状況，測定年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成時から測定日までの日数）
　c 試料採取方法，測定方法，使用した測定機器

測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合は，引渡は受けない。

・　総揮発性有機化合物の測定
　測定方法，測定物質及び測定か所等については，この仕様書の末尾に定める総揮発性有機化合物測定仕様書による。

※　室内ＶＯＣ濃度の測定結果に関する書面の当該施設への掲示については，施設管理者に依頼する。

10．特別な材料の工法
「標準仕様書」及び「改修標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

⑪．建築基準法による風圧力等の指定

(9.4.4)(10.5.3)(13.2.3、3.3、4.3)(14.7.3)(16.13.2、14.5)(23.5.4)

適　用　工　事	建　築　基　準　法　の　指　定
・　合成高分子系ルーフィングシート工法 ・　外壁乾式工法　⊙　長尺金属板葺 ・　折板葺　・　粘土瓦葺 ・　アルミニウム笠木 ・　オーバーヘッドドア ・　ガラスブロック　・　屋上緑化	風速(V0)　※３０　・ 地表面粗度区分　・Ⅱ　⊙Ⅲ 多雪地域の指定　・有　⊙無

⑫．設計G.L.　※　図　示　・　現状平均地盤高

⑬．技　能　士　(1.5.2)
・　下表で技能士を適用することとした職種に、１級又は単一級技能士を配置する。
※　下表で技能士を適用することとした職種に、１級、２級又は単一級技能士を配置する。
※　下表で技能士を適用しないとした職種でも、技能士の配置に努めること。

工　事　種　目	技能検定職種（技能検定作業）
仮設工事	⊙とび（とび作業）
鉄筋工事	⊙鉄筋施工（鉄筋組立作業）
コンクリート工事	⊙型枠施工（型枠工事作業）
	⊙コンクリート圧送施工（コンクリート圧送工事作業）
鉄骨工事	・鉄工（構造物鉄工作業）
コンクリートブロック・ALCパネル	・ブロック建築（コンクリートブロック工事作業）
・押出成形セメント板工事	・ＡＬＣパネル施工（ＡＬＣパネル工事作業）
防水工事	・防水施工（・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ防水工事作業 ・ＦＲＰ防水工事作業　）
石工事	・石材施工（石張り作業）
タイル工事	⊙タイル張り（タイル張り作業）
木工事	⊙建築大工（大工工事作業）
屋根及びとい工事	⊙建築板金（内外装板金作業）
金属工事	・内装仕上施工（鋼製下地工事作業） ⊙建築板金（内外装板金作業） ・バルコニー施工（金属バルコニー工事作業）
左官工事	⊙左官（左官作業）
建具工事	⊙サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ⊙ガラス施工（ガラス工事作業） ・自動ドア施工（自動ドア施工作業）
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・カーテンウォール施工（金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業） ・サッシ施工（ビル用サッシ施工作業） ・ガラス施工（ガラス工事作業）
塗装工事	⊙塗装（建築塗装作業）
内装工事	⊙内装仕上施工（・プラスチック系床仕上工事作業 ・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上工事作業　）
	⊙表装（壁装作業）
排水工事	⊙配管（建築配管作業）
舗装工事	・路面標示施工（・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ作業　）
植栽工事	・造園（造園工事作業）

⑭．完成図等
　営繕工事完成引渡要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課）により作成する。

・　白焼Ａ３版折製本（黒表紙金文字入）　２部
※　白焼（Ａ３版）２つ折製本　１部
⊙　完成図面　JWW形式又はDXF形式のCADデータ及びPDF形式　DVD-R等2部

⑮．完成写真
※　作成する　・　作成しない
　営繕工事写真撮影要領により、完成届に添付する完成写真とは別に次のものを原本（電子媒体）とともに監督職員に提出する。
　なお、原本は、DVD-R等で提出すること。

分　類	サイズ	撮影箇所数	部　数	提出様式
※カラー ・白黒	※Ｌ ・２Ｌ ・六切り	※営繕工事写真撮影要領の完成写真程度 ・　箇所　枚	※１部 ・　部	※工事用アルバムA4版 ポケット式程度 ・フリーアルバム （台紙寸法323×270程度） ・

　アルバムは、監督職員との協議により紙媒体又は電子媒体とする。

⑯．設備工事との取合い
施工範囲　各工事の区分表による。
施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。

⑰．火災保険等
工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。
　保険の種類　※　火災保険　※　建設工事保険
　保険期間　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで

18．住宅瑕疵担保責任
住宅瑕疵担保履行法に基づく保険の加入又は保証金の供託の義務付け
・あり（新築住宅の場合）　・なし（新築住宅以外の場合）

2 仮設工事

①．仮囲い
※　設ける　・　設けない　仮囲いの位置及び延長は図示による。
⊙キャスターゲート（H=2.0m　，W=5.4m　）×　１箇所
・シートゲート（H=　，W=　）×　　箇所

②．危害防止
※　シート張り　・　金網養生

③．交通誘導員
⊙　配置する（60日　×　1人　＝　60人日）　※　配置しない

④．揚重機械器具
⊙　ラフテレーンクレーン（20ｔ吊り）×　14日
・　（　ｔ吊り）×　日

5．監督職員事務所
※　設けない（請負者事務所に打合せ会議室を確保する）
・　設ける（規模　㎡程度　請負者事務所と同棟　・可　・否）
備品（　　）

⑥．工事表示板
※　設置する　・　設置しない
　営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）による。

7．事業コスト
・　設置する（５億円以上の工事が対象）　・　設置しない
　営繕工事における工事及びコスト表示要領（令和6年4月1日宮城県土木部営繕課・設備課制定）による。

⑧．工事用水　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑨．工事用電力　構内既存の施設　・　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない

⑩．工事用通路　※　指定しない　⊙　指定する（図示）

⑪．足場等　(2.2.4)
　足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。

3 土工事

①．埋戻し及び盛土の種別　種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1)
Ｃ種の場合　建設発生土受入数量　㎥
発生場所

②．建設発生土の処理　(3.2.5)
・　構内指示の場所に敷きならす。
・　構内指示の場所にたい積する。
・　構外指示の場所に搬出する。
町内指定場所・（km）
⊙　構外にて適切に処理する。
・　有害物質の含有を調査する。
調査範囲及び項目　※図示

3．有害物質含有調査

4 地業工事

①．支持地盤　(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)
・杭基礎
　支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)
　・図示による　・
⊙直接基礎
　支持層の位置及び土質(基礎底部の位置含む)
　・図示による　⊙　構造図及び地質調査報告書による
・地盤の載荷試験(平板載荷試験)
　・行う
　試験の方法、位置及び載荷荷重は図示による

2．既製コンクリート杭地業　(4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)～(4.3.6)(4.3.8)
杭の種類
・　遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭）
・　プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）
・　外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）
　SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種別)、寸法、継手の箇所数等

		種類 種別	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備 考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

杭先端部形状
　・開放型　・半開放形　・閉そく形

工法
・セメントミルク工法
　・図示による
・特定埋込杭工法
　・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　α＝250を採用できる工法　・図示による
　・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
　工法
　・プレボーリング拡大根固め工法
　・中堀り拡大根固め工法
　・
杭の精度
　水平方向の位置ずれ
　・杭径の1/4かつ100㎜以下　・評定等の評価内容による
　建込み時の杭の鉛直度
　・1/100以内　・評定等の評価内容による

杭の継手の工法
・アーク溶接継手
　溶接材料
　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　工法
　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　・図示による　・

3．鋼杭地業　(4.2.2)(4.4.3)～(4.4.6)
鋼杭の材料
・図示による
杭の種類、寸法、継手の箇所数等

		種類	杭径 (mm)	厚さ (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備 考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本　杭	上杭 中杭 下杭								

特定埋込杭工法
・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で
　α＝250を採用できる工法　・図示による
・上記以外の特定埋込杭工法　・図示による
　工法
　・(　　)
杭の継手の工法
・アーク溶接継手
　形状
　・JIS A 5525による　・
　溶接材料
　・標準仕様書7.2.5(1)(2)による　・
・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
　工法
　※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
・処理しない
・処理する
　処理方法(切断にともなう補強方法含む)
　・図示による　・

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A ― 1101
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-1	縮尺	―(A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

4 地業工事

4．場所打ちコンクリート杭地業 (4.5.1)

工法
- ・アースドリル工法(安定液　※使用する　・使用しない)
- ・リバース工法
- ・オールケーシング工法(孔内の水張り　・行う　・行わない)

併用する工法
- ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
  鋼管巻き材料
  - ・SKK400　・SKK490　・
- ・拡底杭工法(安定液　・使用する　・使用しない)
- ・

寸法等
- ・図示による　・

孔壁測定 (4.5.5)
- ・行う
  測定方法、測定箇所は図示による
- ・行わない

材料その他 (4.5.4)
- 帯筋　・図示による
- 鉄筋の最小かぶり厚さ　・図示による
- セメントの種類
  - ※高炉セメントB種　・
- コンクリートの種別
  - ・A種　・B種　・評定等の評価内容による
- スランプ
  - ・18cm　・21cm
- コンクリートの設計基準強度　(　　)N/mm2
- 構造体強度補正値(S)
  - ・3N/mm2　・評定等の評価内容による　・

⑤ 砂利地業

材料 (4.6.2～3)
- 砂利　※　再生クラッシャラン　・

範囲
- ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
- ⊙図示による

厚さ
- ※60mm　⊙　100mm

⑥ 捨コンクリート地業

範囲
- ・基礎下、基礎梁下、土間スラブ下　⊙図示による

厚さ
- ※50mm　・

設計基準強度
- ※18N/mm2　・

スランプ
- ※15cm又は18cm　・

⑦ 床下防湿層

材料 (4.6.2)(4.6.5)
- ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・

範囲
- ⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)
- ・　図示

⑧ 地盤改良工法

種類及び施工方法等
- ⊙図示による　・

9．置換コンクリート地業（ラップルコンクリート地業）

形状等
- ・図示による　・

支持地盤
- ・図示による　・

5 鉄筋工事

① 鉄筋 (5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
※　SD295	D16以下	
・　SD345		

2．溶接金網 (5.2.2)

鉄線の形状等

種類	種類の記号	形状、網目寸法、径(mm)	使用部位
・溶接金網			
・鉄筋格子			

③ 鉄筋の継手 (5.3.4)

鉄筋の継手の方法等

種類	種類の記号	継手の方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋		※ガス圧接　・機械式継手 ・溶接継手　⊙重ね継手	※D16以上
耐力壁の鉄筋		※重ね継手　・	※D16以下
その他の鉄筋(耐圧版)		⊙重ね継手　・	※D16以下

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ
- ※構造特記仕様書による

継手位置
- ※構造特記仕様書による

耐力壁の重ね継手の長さ
- ※図示による

④ 鉄筋の定着

鉄筋の定着長さ (5.3.4)
- ※図示による　⊙　構造特記仕様書による

⑤ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

最小かぶり厚さ (5.3.5)
- ※図示による　⊙　構造特記仕様書による

軽量コンクリートを適用する場合
- ・有り(※図示による)　適用箇所(　　)

耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
- ・有り(※図示による)　適用箇所(　　)

6．特殊な鉄筋継手

・機械式継手 (5.5.1～5.5)
- 適用箇所
  - ※図示による　・
- 性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
  - ・A級　・
- 機械式継手の種類(　　)
- 鉄筋相互のあき
  - ※図示による　・
- 施工完了後の試験
  - ※図示による　・

・溶接継手 (5.6.1～6.5)
- 適用箇所
  - ※図示による　・
- 性能(H12建告第１４６３号に適合するもの)
  - ・A級　・
- 機械式継手の種類(　　)
- 鉄筋相互のあき
  - ※図示による　・
- 施工完了後の試験
  - ※図示による　・

⑦ 各部配筋

各部の配筋は，図示による。図示がなければ，標準仕様書 末尾 資料の「各部配筋　参考図」による。 (5.3.7)

8．柱の帯筋

※　H形　・　W－I形　・SP形 (参考図　図2.2)

9．耐震壁を除く壁の開口部補強

・　A形　※　B形 (参考図　表4.3～4.4)

10．はり貫通孔の補強

補強形式　※H３形以上　・M型　・MH型 (参考図　表7.1～7.3)

11．圧接完了後の圧接部の試験

外観試験 (5.4.10)
- ※　行う(全数)

抜取試験
- ※　超音波探傷試験　・　引張試験

6 コンクリート工事

① コンクリートの種類

種　別　※　I類　・　II類 (6.2.1)(表6.2.1)

② 設計基準強度

普通コンクリート (6.2.2)

Fc (N/mm2)	適用箇所
・ 24	
⊙ 21	基礎梁、耐圧版
⊙ 18	捨コンクリート

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

軽量コンクリート

Fc (N/mm2)	適用箇所

構造体強度補正値　※標準仕様書表6.3.2による

③ スランプ

基礎，基礎梁，土間スラブ　※　15cm　・　18cm (6.2.4)(表6.2.2)
柱，梁，スラブ，壁　※　18cm

④ セメントの種類 (6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、高炉ｾﾒﾝﾄA種、ｼﾘｶｾﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄA種	建物躯体（下記以外）
・ 高炉ｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁
・ ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種	基礎、地中梁

⑤ 骨材

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)
- ⊙A　・B

6．軽量コンクリート

種類 (6.10.1)(表6.10.1)
- ・1種　・2種

7．無筋コンクリート

適用箇所 (6.14.1)
- ・標準仕様書6.14.1(4)による箇所
- ・標準仕様書6.14.1(4)以外の箇所
  - ・図示による　・

設計基準強度
- ※18N/mm2　・

スランプ
- ※15cm又は18cm　・

⑧ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地

打継ぎの位置 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
- ※標準仕様書6.6.4(1)による　⊙図示による

目地寸法
- ※標準仕様書9.7.3(1)(ア)による　⊙図示による

ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法
- ⊙図示による

⑨ 打増し厚さ（打放し仕上げ部）

⊙打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (6.8.1)
- ⊙20mm　・

・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
- ・10mm　・20mm　・

⑩ 型枠

せき板の材料及び厚さ (6.8.2)
- ⊙合板(※12mm　・　　)
- ・断熱材を兼用した型枠材
  - 使用箇所　※図示による　・
- ・MCR工法用シート
  - 適用箇所　※図示による　・
  - 打増し厚さ　・20mm　・
  - 打増し範囲　※図示による　・
- スリーブの材種・規格等
  - ・図示による　・

7 鉄骨工事

1．鉄骨の製作工場

(7.1.3)
- ※　指定性能評価機関の性能評価を受けて、国土交通大臣の認定を受けた下記のグレード以上の工場
  - ・S　・H　・M　・R　・J
- ・本物件と同等規模構造の施工実績を有し、監督職員の承諾する工場

※　施工監理技術者（※配置する　・配置しない） (7.1.4)

2．鋼材の種別

(7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格
	※図示による(　　)	※JISによる　・
	※図示による(　　)	※JISによる　・
	※図示による(　　)	※JISによる　・

3．高力ボルト

高力ボルトの種類 (7.2.2)
- ※　トルシア形高力ボルト
- ・　JIS形高力ボルト
- ・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

すべり試験の実施 (7.4.2)
- ・行う(試験方法等　・図示による)　※行わない

4．普通ボルト

ボルト及びナットの材料 (7.2.3)
- ・標準仕様書 表7.2.3による　・

座金
- ・標準仕様書7.2.3(4)による　・

ボルトの径
- ・図示による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

5．溶融亜鉛めっき高力ボルト

溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 (7.2.3)
- ・図示による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

摩擦面の処理方法 (7.4.2)
- ・ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
- ・
- ・

すべり試験の実施
- ・行う(試験方法等　・図示による)　※行わない

6．アンカーボルト

構造用アンカーボルト (7.2.4)

種類
- ・ABR400　・ABR490　・

建方用アンカーボルト

種類
- ・SS400　・

アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
- ・標準仕様書 表7.2.3による　・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
- ・図示による　・

7．溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
- ・標準仕様書7.2.5(1)(2)による
- ・

8．ターンバックル

種類 (7.2.6)

建築用ターンバックルボルト
- ※羽子板ボルト　・

建築用ターンバックル胴
- ※割枠式　・

9．床構造用のデッキプレート

材質、形状及び寸法 (7.2.7)(7.7.8)

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・デッキプレート単独の構法			
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)
- ・図示による　・

鉄骨部材への溶接方法
- ・図示による　・

耐火認定
- ・あり　耐火時間　・図示による　・
- ・なし

10．スタッド

種類等 (7.2.8)

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16		
・19		
・22		

11．柱底均しモルタル

無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 (7.2.9)
- ※標準仕様書7.2.9(2)(ア)から(エ)による　・

12．仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)
- ※図示による　・

13．溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
- ・図示による　・

14．溶接接合

開先の形状　※図示による　・ (7.6.4)(7.6.7)

鋼製エンドタブを切断する部分
- 切断する箇所　・図示による　・
- 切断範囲　・

スカラップの形状　※図示による　・

15．溶接部の試験

溶接部の外観試験 (7.6.12)

平12建告第1464号第二号に関する試験方法等
- ・「突合わせ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
- ・抜き取り検査①　※抜き取り検査②

JASS 6 付則6［鉄骨精度検査基準］の付表3「溶接」に関する試験方法等
- ・JASS6 10.4［受入検査］e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。
  ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶込溶接部の試験は超音波探傷試験とし、下表による。

溶接の区分	AOQL(%)	検査水準	備考
工場溶接	・2.5　※4.0	※6　・	

16．錆止め塗装

塗料の範囲 (7.8.2)(7.8.4)(18.3.2)

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
- ・図示による　・

耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
- ※標準仕様書7.8.2(1)による　・図示による

塗料の種別
- ・下記以外の鉄鋼面は、18章[塗装工事]による
- ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種別
  - ※A種　・
- ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種別
  - ・

17．耐火被覆

(7.9.2～8)

種別	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けロックウール		
	※半乾式吹付けロックウール		
	・湿式ロックウール		
	・		
	・		
・耐火板張り	・繊維混入けい酸カルシウム板		
	・		
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール		
	・		
・ラス張りモルタル塗り	-		
・耐火塗料	・		

18．アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法 (7.2.4)(7.10.3)(表7.10.1)
- ・図示による　・

構造用アンカーフレームの形状及び寸法
- ・図示による　・

建方用アンカーボルトの形状及び寸法
- ・図示による　・

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法
- 種別　・A種　・B種

構造用アンカーボルトの形状及び寸法
- 厚さ　・
- 種別　※A種　・B種

19．軽量形鋼構造

ボルトの接合部 (7.11.2)
- ・普通ボルト接合　・

8 押出成型セメント板工事 コンクリートブロック・ALCパネル

1．補強コンクリートブロック造塀

ブロックの種類 (8.4.2～5)(表8.4.2～4)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロック C(16)				・無　・有		
・						

各部の背筋　※図示による　・

目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ

まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲
- ※図示による　・

2．コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類 (8.3.2～4)(表8.3.1)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	モデュール呼び寸法 長さ	モデュール呼び寸法 高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
※空洞ブロック C(16)				・無　・有		
・						

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状
- ※図示による　・

各部の配筋
- ※図示による　・

3．ALCパネル

(8.4.2～5)(表8.4.2～4)

区分			単位荷重(N/m²) 正荷重	単位荷重(N/m²) 負荷重	厚さ(mm)	幅及び長さ	耐火性能(時間)	構法の種別
・外壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	・	・	・	図示による	・なし ・ 1	・A種 ・B種
・間仕切壁用	・一般 ・コーナー	・平 ・意匠	—	—	・	図示による	・なし ・ 1	・C種 ・D種 ・E種
・屋根用	—	—	・	・	・	図示による	・0.5	※F種
・床用	—	—	・	—	・	図示による	・ 1 ・ 2	

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材
- ・

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
- ・図示による　・

目地幅　※20mm　・

外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填
- ・適用する　・適用しない

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1102
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-2	縮尺	—（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

8 押出成型セメント板工事（コンクリートブロック・ALCパネル）

4．押出成形セメント板

ECPの種類等　(8.5.2～5)(表8.5.1～2)

パネルの種類	形状	長さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F	・50・60・	※600・	・A種　・B種	
	・D	・50・60			
	・T	・60			
・間仕切壁パネル	・F	・50・60・	※600・	・A種　・B種	
	・D	・50・60			
	・T	・60			

(注) F:フラットパネル、D:デザインパネル、T:タイルペースパネル

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合
　・図示による　・
パネル相互の目地幅
　・長辺(　　)　短辺(　　)
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)
　※15程度　・
耐火構造以外の目地及び隙間の処理
　※パネルの製造所の仕様　・

⑤ サイディング

⊙窯業系サイディングｔ16　ニチハ　EFX3752GK同等品

9 防水工事

1．アスファルト防水

屋根保護防水　(9.2.2～5)(表9.2.3～9)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート
・A-1			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス70g/㎡程度・
・A-2			
・A-3			
・B-1			
・B-2			
・AI-1		(種類)※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付き)(厚さ)(mm)・	※フラットヤーンクロス 70g/㎡程度・
・AI-2			
・AI-3			
・BI-1			
・BI-2			

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・

平場の保護コンクリートの厚さ
　こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
　床タイル張り　※水下　60mm以上　・
立上り部の保護工法
　・乾式保護材（品質・性能、試験方法は別表による）
　　窯業系パネルⅠ類　厚さ(　　)mm　幅(　　)mm
　・れんが押え（※JIS R 1250　・　　）
　・コンクリート押え
　・モルタル押え（屋内）

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量
・D-1			・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様・	・アスファルトルーフィング類の製造所の仕様・
・D-2				
・DI-1		標準仕様書9.2.2(9)(種類)・(厚さ)(mm)・		
・DI-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.8による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.7及び表9.2.8による　・
絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
　※図示による　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法のだっき装置の種類及び設置数量
　種類
　　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
　設置数量
　　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　　)個

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

　保護層
　　・設ける(※図示による　・　　)
　　・設けない
　E-1の工程３を行う部位
　　※貯水槽、浴槽等常時水に接する部位
　　・
防水層の下地の立上り
　※コンクリート打放し立上り部の保護工法　標準仕様書表6.2.4のB種
　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
　※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
　・
防水層の下地のモルタル塗り
　・適用する(施工範囲　※図示による　・　　)
　・適用しない
屋上排水溝　※図示による　・

2．改質アスファルトシート防水

屋根露出防水　(9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・AS-T1				・改質アスファルトシートの製造所の仕様・	※改質アスファルトシートの製造所の仕様・	
・AS-T2						
・AS-T3						
・AS-T4						
・AS-J1						
・ASI-T1		標準仕様書(9.3.2(3)(ウ))(種類)・(厚さ)(mm)・	・設ける(改質アスファルトシートの製造所の仕様)・設けない			
・ASI-J1						

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.3及び表9.2.4による　・
粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.2.5及び表9.2.6による　・
立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
　※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度
　・
絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
　種類
　　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・
　設置数量
　　※アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・(　　)個

3．合成高分子系ルーフィングシート防水

(9.4.2～4)(表9.4.1～3)
防水層の種別

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱性	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	備考
・S-F1				※カラー・シルバー		
・S-F2						
・S-M1				※カラー・シルバー		
・S-M2						
・SI-F1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)	※カラー・シルバー		
・SI-F2						
・SI-M1			標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)	※カラー・シルバー		
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート・				

S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様
　※非歩行仕様　・軽歩行仕様
SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルム
　・設置する　・設置しない

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場の保護モルタル塗厚	保護層 立上り部の保護モルタル塗厚
・S-C1		・	※7mm以下・

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ
　※標準仕様書表9.4.1～表9.4.2による　・
固定金具の材質、形状及び寸法
　※厚さ0.4mm以上の防錆処理した銅板、ステンレス銅板又はそれらの銅板の両面に樹脂を積層加工したもの
　・
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※ルーフィングシートの製造所の仕様
　　・
　設置数量　※ルーフィングシートの製造所の仕様
　　・(　　)個
接着工法の場合のプレキャストコンクリート部材下地の目地処理
　・行う(・図示による　・　　)
プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り(種別S-F1、SI-F1の場合)
　・行う(・図示による　・　　)
　・行わない

4．塗膜防水

(9.5.3)(表9.5.1、2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	備考
・X-1		※カラー・シルバー			
・X-2		※カラー・シルバー			
・Y-1	※地下外壁防水・				
・Y-2	※屋内防水・			・適用する・適用しない	

ウレタンゴム系塗膜防水X-1の脱気装置の種類及び設置数量
　種類　※主材料の製造所の仕様
　　・
　設置数量　※主材料の製造所の仕様
　　・(　　)個

5．ケイ酸質系塗布防水

(9.6.4)(表9.6.1)
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・C-SUI		・C-SUP	

防水層の下地
　壁　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
　　・
　天井部　※コンクリート打放し仕上げ(表6.2.4 B種)
　　・
下地処理(コンクリートの打継ぎ箇所の処理)
　※打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。
　・図示による　・

⑥ シーリング

(9.7.2)(9.7.3)(9.7.5)(表9.7.1)
下表以外は、標準仕様書表9.7.1による。
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類(記号)

仕上げを行わない施工箇所(・図示による　・　　)
シーリング材の目地寸法
　※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
　・図示による　・
接着性試験
　※簡易接着性試験　・引張接着性試験

7．防水保証

アスファルト防水、改質アスファルトシート防水及び合成高分子系ルーフィングシート防水の保証期間は、引渡し日より１０年間とし、メーカー・施工業者との連名の上、保証書を提出する。
塗膜防水及びケイ酸質系塗布防水については、メーカー・施工業者が通常定めている期間とし、保証書を作成し提出する。

10 石工事

1．施工

石材の割付け　(10.1.3)
　※図示による　・

2．石材等

天然石　(10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		・図示による			

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無
　・あり　・なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石・花こう岩	※1.5～12・	・平もの・役もの	・片面・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考
	※大理石・花こう岩	※1.5～12・	・300型・400型		

その他の材料
　取付け用モルタル
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・
　既調合の目地モルタル
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・
　浸透性吸水防水剤
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・
　石裏面処理材
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・
　裏打ち処理材
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・
　ドレンパイプの材質
　　・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
　　・
　金物の固定に使用する充填材料等
　　※専門工事業者の指定する製品
　　・

3．外壁湿式工法

受金物　(10.2.2、3)(10.3.2、3)
　材質
　　※SUS304　・
　形状及び寸法
　　・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm
　　・
アンカーの材質及び寸法
　材質
　　※SS400　・
　寸法
　　・
あと施工アンカーの材質、寸法等
　種類　・
　材質　・
　寸法　・
ドレンパイプ
　・設ける(設置位置：図示による)
　・設けない
石裏面処理
　・適用する　・適用しない
裏打ち処理
　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
　※あと施工アンカー・横筋流し工法
　・あと施工アンカー工法
　・流し筋工法
目地
　一般目地
　　・目地モルタル　(目地幅　・　　)
　　・既調合の目地モルタル　(目地幅　・　　)
　　※シーリング材　(種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　)
　　(目地幅及び深さ　・　　)
　伸縮調整目地
　　位置
　　・図示による
　　シーリング材の種類
　　※標準仕様書表9.7.1による
　　・
　　目地寸法
　　※幅・深さとも10mm以上
　　・図示による

4．内壁空積工法

受金物　(10.2.2)(10.4.2、3)
　材質
　　※SUS304　・
　形状及び寸法
　　・L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm又は150mm
　　・
あと施工アンカーの材質、寸法等
　種類　・
　材質　・
　寸法　・
石裏面処理
　・適用する　・適用しない
裏打ち処理
　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ
　※あと施工アンカー・横筋流し工法
　・あと施工アンカー工法
一般目地
　・目地モルタル　(目地幅　・　　)
　・既調合の目地モルタル　(目地幅　・　　)
　・シーリング材　(種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　)
　(目地幅及び深さ　・　　)
伸縮調整目地
　位置
　　・6m程度
　　・
　シーリング材の種類
　　※標準仕様書表9.7.1による
　　・
　目地寸法

5．外壁乾式工法

(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
　※標準仕様書表10.2.4による
　(方式：　・スライド方式　・ロッキング方式)
　・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法等
　種類　・
　材質　・
　寸法　・
だぼ用の穴の位置
　※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による
　・図示による
裏打ち処理
　・適用する　・適用しない
シーリング材
　種類
　　※標準仕様書表9.7.1による
　　・
　目地幅及び深さ
　　・

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A ― 1103
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-3	縮尺	―(A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

10 石工事

6．床及び階段の石張り

浸透性吸収防水材 (10.6.2、3)
（床石張り）・適用する　・適用しない
石裏面処理
（床石張り）・適用する　・適用しない
（階段張り）・適用する　・適用しない
裏打ち処理
（床石張り）・適用する　・適用しない
一般目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル　（目地幅　・　）
・シーリング材　（種類　※標準仕様書9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

7．笠木、甲板等の石張り

取付け工法 (10.2.2) (10.7.2)
・湿式工法
・乾式工法
特殊部位用金物
材質
※SUS304　・
寸法等
引金物
※標準仕様書表10.2.3による
・
だぼ
※標準仕様書表10.2.3による
・
かすがい
※標準仕様書表10.2.3による
・
受金物
※標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による
・
乾式工法の方式による金物の種類、形状、寸法等
ファスナー
※標準仕様書表10.2.4に準ずる
（方式：・スライド方式　・ロッキング方式）
・図示による
あと施工アンカーの材質、寸法
種類　・
材質　・
寸法　・
石裏面処理
・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代
※70mm程度
石材の裏面の補強用モルタル
・適用する　・適用しない
一般目地
・目地モルタル　（目地幅　・　）
・既調合の目地モルタル　（目地幅　・　）
・シーリング材　（種類　※標準仕様書表9.7.1による　・　）
（目地幅及び深さ　・　）
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書10.6.2(5)(a)による
・図示による
シーリング材の種類
※標準仕様書表9.7.1による
・
目地寸法
・図示による

11 タイル工事

①．伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 (11.1.3)(表11.1.1)
※標準仕様書表11.1.1による
・図示による
目地寸法
・図示による

2．見本焼き試験施工

見本焼き (11.1.4)
・行う（施工箇所：　）　※行わない
試験張り
・行う（範囲、仕様等は図示による）　※行わない

③．セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.2.2、6)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
図示	ﾉﾝｽﾘｯﾌﾟ	100*100	⊙	・	・	⊙	・	⊙	・	⊙	・	⊙	・	⊙
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

4．有機系接着剤によるタイル張り

既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
※改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
※マスク張り
・モザイクタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2～5)

施工箇所	種類	形状/寸法(mm)	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性
			Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	施ゆう	無ゆう	有	無	標準	特注	有	無	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
・
伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコーン系シーリング材
・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※目荒し工法（高圧水洗処理）
・MCR工法
・
外装タイルの目地詰め
・行う　・行わない

12 木工事

①．施工一般

材料のホルムアルデヒド放散量 (12.2.1)
※F☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による
・

②．製材

(12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)

⊙JAS 1083-5 製材-第5部に基づく下地用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※2級 ・	※A種　・B種　・	
		※2級 ・	※A種　・B種　・	

⊙JAS 1083-2 製材-第2部に基づく造作用製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
見え掛り面	図示	※上小節 ⊙指定なし	※A種　・B種　・	
見え掛り面以外	図示	※小節以上 ⊙指定なし	※A種　・B種　・	

⊙JAS 1083-6 製材-第6部に基づく広葉樹製材

施工箇所	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※1等 ・	※10%以下 ・A種　・B種	
		※1等 ・	※10%以下 ・A種　・B種	

・JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	含水率
		（　） ・造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種　・B種　・
		（　） 造作材の場合 （※A種　・B種）	・適用する ・適用しない	※A種　・B種　・

③．造作用集成材

⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1)

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
建具枠廻り	アカマツ	アカマツ	図示	図示	※1等　・2等 ※1等　・2等

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	品名	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板： 芯材：			※1等 ・2等	
		化粧薄板： 芯材：			※1等 ・2等	

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下 ・
				※15%以下 ・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・

4．造作用単板積層材

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材 (12.2.1)

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理
				・適用する ・適用しない
				・適用する ・適用しない

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理
			※14%以下 ・	・適用する ・適用しない
			※14%以下 ・	・適用する ・適用しない

・JAS 3079 に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法(mm)

⑤．合板等

⊙「合板の日本農林規格」による普通合板 (12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
図示	※5.5 ⊙9.0	⊙ラワン	※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	⊙適用する ・適用しない

⊙「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級
図示	※2級以上 ・1級		※1類 ⊙特類	※C-D以上 ・	※12 ⊙9	⊙適用する ・適用しない	⊙適用する （　） ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理
			・1類　・特類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類　・2類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類　・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・

・JAS 0360 に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法（mm）

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

6．接合具等

造作材の化粧面の釘打ち (12.2.2)
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し
諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書表12.2.3～5に示す程度の市販品　表14.2.2のF種程度）
・　（形状：　寸法：　材質：　）

⑦．接着剤

接着剤のホルムアルデヒドの放散量 (12.2.2、3)
※F☆☆☆☆　・

⑧．防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材 (12.3.1、2)
適用部位：（　）

⊙薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分		
土台	・K2	⊙K3	・K4
	・K2	・K3	・K4
	・K2	・K3	・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による ・	※JIS K 1571に適合又は同等品
	・	

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　）
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（　）

⑨．内部間仕切軸組及び床組み

⊙間仕切軸組に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.4.1)
※杉又は松　・
⊙床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松　・

⑩．窓、出入口その他

⊙窓、出入口その他に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合） (12.5.1)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

11．床板張り

(12.6.1)
・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※ひのき　・

⑫．壁及び天井下地

(12.7.1)
⊙壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松　・

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1104
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-4	縮尺	—（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

13 屋根及びとい工事

① 長尺金属板葺

(13.2.2、3)

施工箇所	板及びｺｲﾙの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
屋根 壁面(図示)	※JIS G 3322 の屋根用 (着色　・有)	⊙5類 (AZ150) ・	※0.4 ・0.5 ・	※心木なし 瓦棒葺 ・立平葺 ・蟻掛葺 ・横葺 ⊙長尺縦はぜ葺	

下葺材料
・アスファルトルーフィング 940
⊙改質アスファルトルーフィング下葺材
(⊙一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ)
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め　・けらば包み納め
雪止め
⊙設置する　(形状及び施工箇所　⊙図示による　・　　)
・設置しない

2. 折板葺

(13.2.2)(13.3.2)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かな合形			(　　)種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料
折板の材質の種類(※JIS G 3302の屋根用(着色 ・有)　・　　)
塗膜の耐久性の種類、めっき付着量(・5類(AZ150)　・　　)
断熱材張り
・行う　(断熱材の種別：　　厚さ(mm)：　　防火性能：　　)
・行わない
耐雪性能に対応した工法の適用
・適用する　・適用しない
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法
雪止め
・設置する　(形状及び施工箇所　・図示による　・　　)
・設置しない

3. 粘土瓦葺

(13.4.2、3)

施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない
						・適用する ・適用しない

桟瓦の防災瓦の使用　・適用する　・適用しない
JISA5208に基づく凍害試験等
・行う　・行わない
瓦桟木
材質
※杉　・
寸法
※幅21×高さ15(mm)以上
・
棟補強用心材
材質
※杉　・
寸法
※幅40×高さ30(mm)
・
瓦緊結用釘及びねじ
種類(　　)　径(　　)　長さ(　　)
棟補強等に使用する金物等
材質
・ステンレス製
・溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法
※図示による　・
工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等
※図示による　・
瓦桟木の留付け工法
※図示による　・
棟の工法
・7寸丸伏せ棟又はF形用冠瓦伏せ棟
・のし積み棟
・
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・モルタル　・瓦葺き用しっくい

④ とい

(13.5.2、3)(表13.5.4)

といその他の材種
・配管用鋼管
・硬質ポリ塩化ビニル管
・ルーフドレン
・表面処理鋼板(表面及び裏面の塗膜の種類　・溶融亜鉛メッキ)
⊙ガルバリウム鋼板(軒樋：鎖樋：タニタensui同等品)
(軒樋：タニタ　HACO H6号同等品　鎖樋：タニタensui同等品)

とい受金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品(とい径 100 以下)
⊙25×4.5(mm)以上(とい径 100 を超えるもの)
・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・
足金物
材種
※標準仕様書表13.5.2による　(溶融亜鉛めっきを行ったもの)
・
形状
※市販品　・
取付け間隔
※標準仕様書表13.5.2による
・
多雪地域
・適用する　⊙適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き
※標準仕様書表13.5.4による
・
ルーフドレンの種類及び呼び

種別		呼び	施工箇所
※ろく屋根用たて形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・ろく屋根用横形Ⅰ型	※ねじ込み式	・80　・100 ・125　・150	
・バルコニー中継用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	
・バルコニー用	・ねじ込み式	・50　・80　・100	
	・差し込み式	・50　・75　・100	

14 金属工事

① アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種類	色合い等	施工箇所 (成形板、笠木、建具以外)
・AB-1種		
・AB-2種	・標準色 ・特注色	
・AC-1種		
・AC-2種	・標準色 ・特注色	
・BA-1種		
⊙BA-2種	⊙標準色 ・特注色	外部手すり支柱
・BB-1種		
・BB-2種	・標準色 ・特注色	
・BC-1種		
・BC-2種	・標準色 ・特注色	
・C種	・標準色 ・特注色	

陽極酸化皮膜の着色方法
※二次電解着色
・三次電解着色

2. 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表 14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所(手すり、タラップ以外)
・ 溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
・ 電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

3. 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外
※25形　・19形
屋内
※19形　・25形
屋外の形式及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示による　・
周辺部の端からの間隔　・図示による　・
野縁の間隔　・図示による　・
・つりボルトの間隔が900mmを超える場合
(補強方法　※図示による　・　　)
・天井のふところが3.0mを超える場合
(補強方法　※図示による　・　　)
・天井下地材における耐震性を考慮した補強
(補強箇所　※図示による　・　　)
(補強方法　※図示による　・　　)
・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強
(補強箇所　※図示による　・　　)
(補強方法　※図示による　・　　)

4. 軽量鉄骨壁下地

(14.5.3、4)(表14.5.1)
スタッド、ランナの種類
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示による
・
スタッドの高さが5.0mを超える場合
※図示による　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4.(5)による
・

5. 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表14.2.1)

種別	製法	形状	板幅(mm)	板厚(mm)	表面処理	
					種別	色合い等
・アルミニウム	・押出し ・ロール ・プレス ・	ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形 パネル形				

取付け用下地
※標準仕様書14.4による
・図示による
伸縮調整継手
・設ける
(施工箇所　・図示による　・　　)
・設けない

6. アルミニウム製笠木

種類　(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
・250形　・300形　・350形
表面処理
種別(　　)種
色合等　・標準色(　　)　・特注色(　　)

⑦ 手すり

⊙アルミニウム製　支柱　塗装被膜　手すり　樹脂被覆

15 左官工事

1. モルタル塗り

モルタル　(15.3.2、5)
・現場調合材料
・既調合材料
既製目地材
・設ける
施工箇所(　　)　形状(※図示による　・　　)
・設けない
床の目地
・設ける
目地割り
※2㎡程度(最大目地間隔3m程度)
・
目地の種類
※押し目地
・
・設けない
屋外のタイル張り下地及び屋内の吹抜け部分等のタイル張りの下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない

2. ラス系下地

ラス系下地　(15.2.4)
・二層下地通気構法
・単層下地通気構法
換気口部の措置　(※公共木造建築工事標準仕様書11.4.3.(2)(ｳ)　・　)
・直張りラスモルタル下地
・直張りラスシートモルタル下地
ラスの材料
種類及び記号　(　　)
単位面積当たりの質量(　　)
ラスシートの材料
ラス目による区分(※M　・　　)
山高、山ピッチ、質量及び溶接区分による区分
(・LS4(建築基準法に基づく耐力壁)　・　　)
ステープルの形状及び寸法(　　)
直張りラスシートモルタル下地で建築基準法に基づく耐力壁のラスシートの施工

③ せっこうボード その他のボード下地

せっこうボード及びせっこうラスボードの種類及び厚さ　(15.2.5)
種類(⊙GB-R 厚さ12.5mm　⊙GB-D 厚さ9.5mm　⊙GB-S 厚さ12.5mm)
木質系セメント板の種類及び厚さ
種類(・　　)　厚さ(　　mm)

4. こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定(・あり　・なし)　(15.2.6)

5. 木ずり下地

木ずり用小幅板の種類(※すぎ(心去り材)　・　　)　(15.2.7)

6. 仕上塗材仕上げ

内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量　(15.6.2)
※F☆☆☆☆
・
仕上塗材の種類
・薄付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り		
・可とう形外装塗材Si	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り		
・外装薄塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
	・着色骨材砂壁状	・吹付け ・こて塗り		
・可とう形外装塗材E	・砂壁状 ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り	・適用する	・
	・凹凸状	・吹付け		
・外装薄塗材S	・砂壁状	・吹付け	・適用する	・
・内装薄塗材C ・内装薄塗材L	・凹凸状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材Si ・内装薄塗材E	・砂壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		
	・ゆず肌状 ・さざ波状	・ローラー塗り		
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく ・ゆず肌状	・吹付け	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状	・こて塗り		

・厚付け仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り	防火材料
・外装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・外装厚塗材Si ・外装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			
・内装厚塗材C	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り			
・内装厚塗材L	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材G	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし	・こて塗り	・適用する	・適用する	・
・内装厚塗材Si ・内装厚塗材E	・吹放し ・凸部処理	・吹付け	・適用する	・適用する	・
	・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし	・こて塗り ・ローラー塗り			

・複層仕上塗材

種類(呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料
・複層塗材CE ・複層塗材RE ・複層塗材Si ※複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	※ゆず肌状	※ローラー塗り			
・可とう形複層塗材CE	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け		・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			
・防水形複層塗材CE ・防水型複層塗材RE ・防水形複層塗材E	・凸部処理 ・凹凸状	・吹付け	樹脂 ・ 外観 ・ 溶媒 ・	・耐候形1種 ・耐候形2種 ・耐候形3種	・
	・ゆず肌状	・ローラー塗り			

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1105
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-5	縮尺	—(A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

15 左官工事

・軽量骨材仕上塗材

種類（呼び名）	防火材料
・吹付用軽量塗材	・
・こて塗用軽量塗材	・

7．マスチック塗材塗り
種別 (15.7.2)
・A種　・B種

8．ロックウール吹付け
ロックウールのホルムアルデヒド放散量 (15.12.2、3)
※F☆☆☆☆
・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
・
仕上げ吹付け厚さ
※図示による
・25mm
・

9．しっくい塗り
しっくい (15.10.2～4)
・既調合材料
色しっくい　・適用する　・適用しない
・現場調合材料
下地
・せっこうボード　・せっこうラスボード　・モルタル塗り　・木ずり
・こまい　・下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
・
既調合しっくいの調合
・せっこうボード下地　※標準仕様書表15.10.1　・
・モルタル塗り下地　※標準仕様書表15.10.2　・
・せっこうラスボード下地　※製造所の仕様による　・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・木ずり下地　※標準仕様書表15.10.3　・
・せっこうプラスター下地、こまい下地　※標準仕様書表15.10.4　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・なで切り仕上　・パターン仕上げ

10．こまい壁塗り
のり (15.11.2～5、7、8)
・土壁用ののり
※つのまた
・ふのり
・ぎんなんそう
・粉末海藻
・
・砂壁用ののり
※ふのり
・つのまた
・こんにゃくのり
・にかわ
・合成高分子系混和剤
・
色土
・土物仕上げに用いる色土の種類（　　）
・大津仕上げに用いる色土の種類（　　）
色砂の種類
・天然砂と岩石の砕砂
・人工的に着色・製造したもの
下塗りの調合
※標準仕様書表15.11.2
・
塗厚
※標準仕様書表15.11.8による
・建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（　　）
・
こまい壁の工程
※A種　・B種

こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類
・土物仕上げ工法
・水ごね土物1工法
・水ごね土物2工法
・のりさし土物工法
・のりごね土物工法
・砂壁仕上げ工法
・切返し仕上げ工法
こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類
・普通大津仕上げ工法
・大津みがき仕上げ工法
ちりじゃくり
・図示による　・

16 建具工事

1．防火戸
※建具表による (16.1.3)
・

2．見本の製作等
建具見本の製作　・行う（建具符号：　　）　※行わない (16.1.4)
建具見本製作の目的等　・
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：　　）　※行わない

3．防犯建物部品
・適用する（・建具表による　・　　）
※適用しない (16.1.6)

④ アルミニウム製建具
性能値等 (16.2.2、4、5) (表14.2.1) (表16.2.1、2)
耐風圧性の等級（⊙S－2）
（建具符号　⊙建具表による（AD-3以外）　⊙S-1（AD-3）　）
気密性の等級（⊙A－4）
（建具符号　⊙建具表による（AD-3以外）　・　）
水密性の等級（⊙W－4）
（建具符号　⊙建具表による（AD-3以外）　・　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　）
枠の見込み寸法（※建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（　　）
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（H-5　）
（建具符号　⊙建具表による（AD-3以外）　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面処理
外部に面する建具
種別
※BB-1　・BB-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
屋内の建具
種別
※BC-1　・BC-2　（標準仕様書表14.2.1）
着色
※標準色　・特注色
結露水の処理方法
・水貯め式　・排水式
工法
水切り板、ぜん板
※図示による
木下地の場合の内付け建具
・適用しない　・適用する

⑤ 網戸等 (16.2.3)

種類	材質	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6．樹脂製建具
性能値等 (16.2.5) (16.3.2～5) (表16.3.1～3)
耐風圧性の等級（　　）
気密性の等級（　　）
水密性の等級（　　）
外部に面する建具の種別
・A種（建具符号　・建具表による　・　）
・B種（建具符号　・建具表による　・　）
・C種（建具符号　・建具表による　・　）
・D種（建具符号　・建具表による　・　）
・E種（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・T-1　・T-2）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（・H-4　・H-5　・H-6　・H-7　・H-8）
（建具符号　・建具表による　・　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
枠の見込み寸法　※建具表による　・
材料
ガラス
※複層ガラス（組合せは建具表による）
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面色　・標準色　・特注色
工法
水切り板、ぜん板　※図示による　・
木下地の場合の内付け建具　・適用しない　・適用する

7．鋼製建具
性能値等 (16.2.2) (16.4.2～4) (16.4.6) (表16.4.2)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　）
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ
※標準仕様書表16.4.2による
・　使用箇所（　　）
標準型鋼製建具の形式及び寸法
※建具表による　・

8．鋼製軽量建具
性能値等 (16.2.2) (16.5.2～4)(16.5.6)(表16.5.1)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
・適用しない
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　　）
（建具符号　・建具表による　・　）

材料
鋼板
・亜鉛めっき鋼板
・ビニル被覆鋼板
・カラー鋼板
・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
召合わせ、縦小口包み板の性質
※鋼板　・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
鋼板類の厚さ（mm）
※標準仕様書表16.5.1による
・
使用箇所（　　）
標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法
※建具表による　・

9．ステンレス製建具
性能値等 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
簡易気密型ドアセット
※適用する
（建具符号　・建具表による　・　）
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性
耐風圧性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
防音ドア・防音サッシ
遮音性の等級（・　）
（建具符号　・建具表による　・　）
断熱ドア・断熱サッシ
断熱性の等級（　）
（建具符号　・建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。
材料
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・
ステンレス製のくつずりの仕上げ
※HL　・
形状及び仕上げ
表面仕上げ
※HL　・鏡面仕上げ
工法
ステンレス鋼板の曲げ加工
※普通曲げ
・角出し曲げ（b角（切込み後の残り板厚0.75mm、裏板補強有り））
・角出し曲げ（c角（切込み後の残り板厚1.0mm））

⑩ 木製建具
建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2～4)
※A種　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆　・

⊙フラッシュ戸
表面材のホルムアルデヒド放散量等
※標準仕様書16.7.2(2)(イ)(a)による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板	表面の樹種 ・ 板面の品質（※広葉樹1等　・　） 接着の程度（・1類　・2類）	
・天然木 化粧合板	樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類）	
⊙特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 ※プリント ⊙ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 ・ 接着の程度（⊙1類　・2類）	
・MDF		

表面板の厚さ
※表16.7.6による　・
引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用
・適用しない　・適用する
・かまち戸
かまち樹種（　　）　鏡板樹種（　　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り（押入等の裏側以外）
・鳥の子
※新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ
・塗り縁
・生地縁（素地）
・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
表面板の仕上　・建具表による
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・

枠、くつずりの材料
・建具表による　・

⑪ 建具用金物
金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3)(表16.8.1～5)
※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による
・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.2による
⊙建具表による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.3による
・建具表による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書表16.8.4による
⊙建具表による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書表16.8.5による
⊙建具表による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
⊙建具表による
・

⑫ 鍵
マスターキー (16.8.4)
・製作する　⊙製作しない
鍵の製作本数
※各室3本1組（室名札付き）　⊙出入口2ヵ所1組
鍵箱
※有り　・無し

13．自動ドア開閉装置
戸の開閉方式 (16.9.2、3)
・建具表による　・
・引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.1（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
種類・開閉方式　（　　）
耐電圧　（　　）
温度上昇　（　　）
耐久性（サイクル）　（　　）
防錆　（　　）
電源　（　　）
・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値
※標準仕様書表16.9.2（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　（　　）
温度上昇　（　　）
耐久性（サイクル）　（　　）
防錆　（　　）
電源　（　　）
・引き戸用検出装置
性能値
※標準仕様書表16.9.3（防錆　・適用する　・適用しない）
・以下による
耐電圧　（　　）
防錆　（　　）
防滴　（　　）
電源　（　　）
引き戸用検出装置の種類　標準仕様書表16.9.4
・建具表による　・
タッチスイッチの種類
・無線式タッチスイッチ　・光線式タッチスイッチ
車椅子使用者用便房スイッチの種類
・大形押しボタンスイッチ　・非接触スイッチ
凍結防止措置
・行う　※行わない

14．自閉式上吊り引戸装置
性能値等 (16.10.3)（表16.10.1）
※標準仕様書表16.10.1
・以下による
手動開き力　（　　）
手動閉じ力　（　　）
閉じ速度の調整　（　　）
制動区間　（　　）
開閉繰返し　（　　）
耐衝撃性　（　　）

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A － 1106
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-6	縮尺	－（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

16 建具工事

15. 重量シャッター

シャッターの種類 (16.11.2、3)
・管理用シャッター
・外壁用防火シャッター
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　　）pa
開閉方式の種類
※電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
電動式シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
管理用シャッターのシャッターケース
※設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類
※JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯）
めっきの付着量
※Z12又はF12
・
ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
ステンレス鋼板
※SUS304、SUS430JIL、又はSUS443JI
・

16. 軽量シャッター

開閉方式の種類 (16.12.2～4)
※手動式
・電動式（手動併用）
耐風圧強度（　　）pa
安全装置
電動シャッターの障害物感知装置
（設置箇所　・建具表による　・　　）
スラットの材質の種類
※JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
めっきの付着量（※AZ90　・　　）
スラットの形状
・インターロッキング形
・オーバーラッピング形

17. オーバーヘッドドア

(16.13.2、3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	※スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置
（設置箇所　※建具表による　・　　）

⑱. ガラス

(9.7)(16.14.2～4)(図16.14.1)
・フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・型板ガラスの厚さによる種類
※建具表による
・

・網入板ガラス及び線入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
・

・合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
・
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類

・強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
・
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類　・Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
・
性能による種類
⊙Ⅰ種　・2種

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
・
断熱性による区分
・T1　⊙T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性及び日射遮蔽性による区分
⊙G（AD-1A・B、AD-2A・B以外）　⊙S（AD-1A・B、AD-2A・B）
乾燥気体の種類
⊙空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・
日射熱遮へい性による区分
・1種　・2種　・3種
耐久性による区分（日射熱遮蔽性による区分が2種の場合）
・A類　・B類

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
・

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2)(9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種別	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	※シーリング材（AD-3） ⊙グレイジングチャンネル ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による
ステンレス製	※シーリング材 ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・
樹脂製	・グレイジングガスケット ・	※建具製造所の仕様による ・図示による ・

19. ガラスブロック積み

(16.14.5)

呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	目地幅（mm）	伸縮調整目地位置（mm）	防火性能
・160×160	・95 ・				
・200×200	・95 ・				

壁用金属枠及び補強材
※図示による　・
力骨
材質
※ステンレス鋼(SUS304)　・
寸法
※径5.5mm　・
形状
※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（・白　・グレー）
シーリングの種類　（・SR-1　・PS-1）
金属製化粧カバー
材質 (17.3.2～6)(表17.3.1、2)
・ステンレス製　・アルミニウム製　・
寸法
※図示による　・
形状
※図示による　・
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔
・図示による　・
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による
・

17 カーテンウォール工事

1. 取付け形態、性能等

取付け形態による分類 (17.1.3)
・層間方式
・柱・梁方式
・方立方式
・スパンドレル方式
・

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性(℃)
				・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・
4mを超える	・

性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

2. メタルカーテンウォール

金属系材料の種類 (17.2.2、3、5、6)
・アルミニウム材
・鋼材
・ステンレス鋼材
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による　・
ガラスの取付け材料
・シーリング
種類（・SR-2　・SR-1）
・構造ガスケット
形状、寸法等　※図示による
断熱材
種類及び範囲　※図示による
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差
※標準仕様書表17.2.1による

見え掛かり部の仕上げ
（アルミニウム材の場合）
規格等　標準仕様書16.2.3による
種別　・　（標準仕様書表14.2.1）
着色　・標準色　・特注色
（鋼材及びステンレス鋼材の場合）
・
ガラス溝の寸法、形状等
※カーテンウォールの製造所の仕様
・
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm　・
水平方向
※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±3mm　・
目地の心の通り
※0～2mm　・
目地両側の段差
※0～2mm　・
各階の基準墨から各部位までの距離
※±3mm　・
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法
※4辺支持　・

3. PCカーテンウォール

材料
コンクリート
種類（・普通コンクリート　・軽量コンクリート1種　・　　）
品質
設計基準強度(Fc)　※30N/mm2　・
スランプ　※12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合　2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
・軽量コンクリートの場合　1.8t/m3～2.1t/m3
・
単位水量の最大値
※185kg/m3　・
鉄筋
種類の記号　※SD295　・
補強鉄線
径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
シーリング材の種類（目地等）
種類及び寸法等　※図示による　・
ガラスの取付け材料
・構造ガスケット
形状、寸法等　・図示による
耐火処理
適用部位、材料等　※図示による
断熱材　種類（　　）
種類及び範囲　※図示による
先付けの材料
・表面仕上材
・セラミックタイル
・石材
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
辺長
※±3mm　・
対角線長の差
※0～5mm　・
版厚
※±2mm　・
開口部内法寸法
※±2mm　・
ねじれ、反り
※0～5mm　・
曲がり
※0～3mm　・
面の凸凹
※0～3mm　・
先付け金物の位置
※0～5mm　・
PCカーテンウォールの仕上げ
・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
※図示による　・

製作
PC版の配筋　※図示による
取付け
躯体付け金物の取付位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm　・
水平方向
※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±5mm　・
目地の心の通り
※0～3mm　・
目地両側の段差
※0～4mm　・
各階の基準墨から各部位までの距離
※±5mm　・
ガラスの取付け方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)
※F☆☆☆☆　・
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
（箇所：　　）

② 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種　・A種
鉄鋼面（DP以外 ）		※C種　・A種　・B種
鉄鋼面（DPのみ）		※B種　・A種　・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※B種　・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		※B種　・A種
押出成形セメント板面		※B種　・A種
コンクリート面（DPのみ）		※A種　・B種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種　・B種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種　・A種

3. 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	※B種　・A種	見え掛り：A種 見え隠れ：B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種　・B種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等：A種 上記以外：B種

④ 塗装

(18.4.1～18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	―
	木部屋内	※B種　・A種	
	鉄鋼面	※B種　・A種	
	亜鉛めっき鋼面	―	
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り塗料の等級（　）級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り塗料の等級（　）級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　・B種 ・C種	―
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 ﾓﾙﾀﾙ面 ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	※B種　・A種	―
	屋内の鉄鋼面 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面	※B種　・A種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		※B種　・A種	―
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り(OS)	―
⊙木材保護塗料塗り(WP)		※B種　・A種	―

クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用
・適用しない
・適用する(着色剤：・溶剤形着色剤　・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等
・

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A ― 1107
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-7	縮尺	―(A3)
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

19 内装工事

① 接着剤 (19.2.2)

ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤の
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示による ・

② 下地の工法 標準仕様書19.2.3(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法 (19.2.3)
⊙図示による ・

③ ビニル床シート (19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ⊙長尺ビニル床シート	※無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0 ・	

F-2a:東リ　フロアリュームプレーンNW同等品
F-2b:東リ　消臭NSトワレ同等品
F-2g:東リ　NSプレーンNW同等品

接合部の処理
※熱溶接工法 ・

4．ビニル床タイル (19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法（mm）	厚さ（mm）	備考
※KT（ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・TT（単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FT（複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOA（置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ） ・FOB（薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ）	・無地 ・柄物	※300×300 ・450×450 ・500×500 ・	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

5．特殊機能床材 (19.2.2)

・帯電防止床シート
種類 （　　）
性能 （　　）
厚さ(mm)（　　）

・帯電防止床タイル
種類 （　　）
性能 （　　）
寸法(mm)（　　×　　）
厚さ(mm)（　　）

・視覚障害者用床タイル
視覚障害者誘導用ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列は
JIS T 9251による。
種類 （　　）
形状 （　　）

・耐動荷重性床シート
種類 （　　）
厚さ(mm)（　　）

・防滑性床シート
種類 （　　）
厚さ(mm)（　　）

・防滑性床タイル
種類 （　　）
寸法(mm)（　　×　　）
厚さ(mm)（　　）

⑥ ビニル幅木 材質の種類 (19.2.2)
⊙軟質 ・硬質
高さ(mm)
※60 ・75 ・100
厚さ(mm)
※1.5以上 ・

7．ゴム床タイル 種類 (19.2.2)
・単層品 ・積層品
色柄（　　）
厚さ(mm)
・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm)（　　×　　）

⑧ カーペット敷き ・ 織じゅうたん (19.3.2、3)(表19.3.1)(表19.3.2)

織り方	パイル形状
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・カットパイル ・ループパイル ・カット/ループパイル

色柄
※模様のない無地
・
パイル糸の種類等
※無地の織りじゅうたんの種別（・A種 ・B種 ・C種）
・
帯電性
・適用する ・適用しない
織じゅうたんの接合方法
※ヒートボンド工法
・つづり縫い
下敷き材
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ（mm）	工法	帯電性
・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・5～7 ・ ・4～6 ・ ・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ・適用しない

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm
・
タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

⊙タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）
※ループパイル	※第一種 ・第二種	⊙図示	※500×500 ・	※6.5 ・
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・

F-4b:東リ　GA100同等品
タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
タイルカーペットの敷き方
平場
※市松敷き
・模様流し
・
階段部分
※模様流し
・市松敷き
・
見切り、押え金物
材質（　　）
種類（　　）
形状等
※図示による ・

9．合成樹脂塗床 (19.4.2、3)(表19.4.4、5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			※平滑仕上げ

塗床材のホルムルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

⑩ フローリング張り (19.5.2～5)(表19.5.1～6)
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等
※標準仕様書19.5.2(2)による
・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆ ・

・単層フローリング （フローリングボード1等）
工法
・釘留め工法（・根太張り ・直張り ）
・接着工法
樹種
※なら ・

・単層フローリング （フローリングブロック1等）
樹種
・
厚さ（mm）
・
大きさ
・

⊙複合フローリング
工法
⊙釘留め工法（・根太張り ⊙直張り ）
・接着工法
樹種
※なら ・
種別
⊙A種 ・B種 ・C種

接着工法の場合の不陸緩和材
※合成樹脂発泡シート
・

・大型積層フローリング
工法
・特殊張り工法（体育館床）
樹種
・なら ・さくら ・

11．畳敷き 種別 (19.6.2)(表 19.6.1)
・A種 ・B種
※C種 ・D種（畳床：・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）

衝撃緩和型畳（畳表：・C1 ・C2）

⑫ せっこうボード、その他のボード及び合板張り (19.7.2、3)(表 19.7.1)
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
合板のホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書19.7.2(3)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか ・
接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・

⑬ 壁紙張り

種類等	厚さ(mm)、規格等
木質系セメント板	
・木毛セメント板 ・硬質(HW)・中質(MW)・普通(NW)	※図示による ・15 ・20 ・25
・木片セメント板 ・硬質(HF) ・普通(NF)	※図示による ・12 ・15 ・18 ・21 ・30
繊維強化セメント板	
⊙化粧けい酸カルシウム板 普通ボード 0.8FK	※図示による ⊙6 ・8
火山性ガラス質複層板	
・火山性ガラス質複層板 種類 ※図示による ・	※図示による ・
繊維板	
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ(MDF)	※図示による ・3 ・7 ・9 ・12 ・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（無処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・内装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DI） ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（処理） ・素地ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・未研磨板（RN） ・研磨板（RS） ・外装用化粧ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（DE）	※図示による ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ ・A級ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ（A-IB） ・天井仕上げ材 ・内装仕上げ材	※図示による ・9 ・12 ・15 ・18 ・
ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ	
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・無研磨板（VN） ・研磨板（VS）	※図示による ・10 ・12 ・15 ・18 ・
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ ・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DV） ・ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ（DO） ・塗装（DC）	※図示による ・10（難燃） ・12（難燃） ・
吸音材料	
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板（DR） ・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ ・凹凸ﾀｲﾌﾟ	・9 （不燃） ・12（不燃） ・12（不燃） ・15（不燃）
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（1号）	※図示による ・25
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ（32K）	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包み） ・
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	
⊙せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-R）	※12.5（不燃）・15（不燃）・
⊙化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-D）	⊙9.5（⊙不燃 ・準不燃）
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-F）	・12.5（不燃）・15（不燃）
・せっこううﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ（GB-L）	・9.5
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（GB-NC） ・化粧無し（下地張り用） ・化粧有り（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	・9.5（不燃）
合板類	
⊙普通合板 表板の樹種名： 板面品質：1等 防虫処理 ⊙行う ・行わない	※仕上表による ・
・天然木化粧合板 化粧板の樹種名： 防虫処理 ・行う ・行わない	※図示による ・
・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 ・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装 表面性能 ・ 防虫処理 ・行う ・行わない	※図示による ・

天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合
※図示による ・
合板類の張付け
・A種 ・B種
せっこうボードの目地工法等
目地工法の種類
※仕上表による
突付け工法及び目透し工法のエッジの種類
・ベベルエッジ ・スクェアエッジ

ホルムアルデヒド放散量 (19.8.2、3)
※F☆☆☆☆ ・

施工箇所	壁紙の種類						防火性能
	紙	繊維	塩化ビニル	プラスチック	無機質	その他	
調理室	・	・	⊙	・	・	・	⊙不燃 ・準不燃
上記以外仕上表による	・	・	⊙	・	・	・	・不燃 ⊙準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃

⑭ 断熱材
モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種別
※B種 ・A種
コンクリート面の素地ごしらえの種別
※B種 ・A種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別
※B種 ・A種

(19.9.2～4)
フェノールフォーム断熱材、保温材又は接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆ ・
・充填断熱工法

種類	厚さ（mm）	施工箇所
⊙高性能グラスウール断熱材16K	⊙100 ⊙200	図示
・高性能グラスウール断熱材24K	・200	図示
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし） （・2種bA ⊙3種bA ・3種bC ・3種bD ）	※50	床下
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	
・フェノールフォーム断熱材	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類
・A種1 ※A種1H ・
吹付け厚さ（mm）
・
施工箇所
・図示による ・

20 ユニット及びその他の工事

1．フリーアクセスフロア (20.2.2)

施工箇所	構法	寸法（mm）	高さ（mm）	耐震性能	所定荷重	表面仕上材
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ※0.6G	・3,000N ・5,000N ・	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・

寸法精度
※標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による
・以下による
パネルの長さの寸法精度
（　　）
パネルの平面形状（角度）の寸法精度
（　　）
フリーアクセスフロアの高さの寸法精度
（　　）
帯電防止性能
・評価値（U）≧0.6以上
・評価値（U）≧1.2以上

2．可動間仕切 (20.2.3)

構造形式による種類	構成基材の種類		パネル表面仕上げ	遮音性(dB/500Hz)	防火性能
	ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ			
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・スタッドパネル式 ・パネル式			・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ※36	※不燃

パネル内に取付ける建具
・有り（※図示による ・　　）
・無し
パネル内に取り付ける建具のドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、
標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。
パネル材料のホルムアルデヒド放出量
※F☆☆☆☆ ・

3．移動間仕切 (20.2.4)

走行方向	操作方法による種類	パネル圧接装置の操作方法	総厚さ（mm）	パネル表面材		遮音性(dB/500Hz)
				材質	仕上げ	
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・ﾌﾟｯｼｭ式 ・ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ※36以上

パネル表面仕上げ材の壁紙張りの品質、性能は標準仕様書19章による。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び
変形量となるように補強する
・図示による
パネルをランナーに取り付ける部品
※ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ハンガーレール及びランナー
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した
値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
・

UW 宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 1108
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-8	縮尺	—（A3）
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

4．トイレブース (20.2.5)

表面材の材料	脚部 種類	ドアエッジ 材質
※メラミン樹脂系化粧板（標準色） ・ポリエステル樹脂系化粧板 ・	※幅木タイプ ・	※製造所の仕様による ・アルミニウム製 ・ステンレス製

⑤ 手すり (20.2.6)

材料の種類及び仕上げ
・SUS304　表面処理　※HL程度
・鋼製　　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（　　）種）
⊙アルミニウム 表面処理
（※標準仕様書表14.2.1による種別（　　）種）
色合い　⊙標準色（　　）　・特注色（　　）

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
⊙ASA樹脂被覆 （材種：　　）	・ ・	⊙35程度 ・45程度 ・	図示	
・ビニル製		・35程度 ・45程度 ・		

6．階段滑り止め (20.2.7)

材種
※ステンレス製
・黄銅製押出型材
・アルミニウム製押出型材
・
形状
※タイヤ型(タイヤの材質：ゴム又は合成樹脂合等)
・タイヤレス型
寸法(幅)
・35mm程度　・40mm程度　・50mm程度
取付け工法
※接着工法
・埋込み工法

7．黒板及び ホワイトボード (20.2.9)

・黒板
区分
※焼き付け　・
種類
※鋼製黒板
・ほうろう黒板
・
色
※緑　・
・ホワイトボード

⑧ 鏡 (20.2.10)

取付け箇所（男性トイレ、女性トイレ、多目的トイレ）
寸法（mm）
⊙図示による　・
厚さ（mm）
※5　・

⑨ 表示 (20.2.11)

衝突防止表示
・設置する　（設置場所：※図示による　・　　）
形状・寸法（※30φ　・　　）
材質　（※ステンレス製　・　　）
・設置しない
誘導標識、非常用進入口等の表示
※消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※図示による

10．タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
・SUS304（スリップ止め加工　※あり　・なし　）
・鋼製　　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書表14.2.2による種別（※C種　・　　種））

11．煙突ライニング (20.2.13)

適用安全使用温度
・
工法
※鋼製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)
・

12．ブラインド (20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	ｽﾗｯﾄの種類	ｽﾗｯﾄ幅	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	幅・高さ取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示による ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※2本操作ｺｰﾄﾞ式 ・1本操作ｺｰﾄﾞ式	・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ ・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ	・80 ・100	※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製 ・	・図示による ・
	・電動	―				

縦型ブラインドのスラットの材質
・アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
・クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

13．ロール スクリーン (20.2.15)

操作方法	スクリーンの材種	その他の材料	幅・高さ取付箇所	品質等
・スプリング式 ・コード式 ・電動式	・ガラス繊維製 ・合成・天然繊維製 ・木製	※製造所の仕様	・図示による ・	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの

14．カーテン (20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付け箇所
・ｼﾝｸﾞﾙ ・片引き ・ﾀﾞﾌﾞﾙ ・引分け	※手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ・ﾌﾟﾚｰﾝひだ		・図による ・

生地の仕様
消防法で定める防炎性能の表示があるもの
暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上
・

⑮ カーテンレール (20.2.16)

材料による区分
⊙アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材
※ステンレス製
強さによる区分
※10-90　・
仕上げ
※アルマイト　・
形状
※角形　・

⑯ ブラインド ボックス 及びカーテン ボックス

材種
⊙ＭＤＦ（仕上げ：オレフィンシート）
※アルミニウム製　押出し型材（市販品）
標準仕様書表14.2.1による種別
※BC-1種　・BC-2種
色合い
・標準色（　　）　・特注色（　　）
・鋼製（仕上げ：　　）

⑰ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	※450×450 ・600×600 ・	・一般形 ・気密形	・屋内外用 ・屋内用	・額縁タイプ ※目地タイプ	・額縁タイプ ※目地タイプ

⑱ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
※アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ※600×600 ・	※一般形 ・密閉形	・屋内外用 ・屋内用	・鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

19．耐震スリット

方向	幅(mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・25 ・	・完全（全貫通型） ・	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	
・水平	・25 ・				

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・	・シーリング材(見え掛かり部のみ) ・シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	・スリット幅×深さ10 ・	・スリット幅×深さ10 ・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による

20．止水板

形式
・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所
・図示による　・

21．くつふきマット

材種	受け枠	備考
※塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304)製 ・	※ステンレス鋼（SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉒ 流し台ユニット

材種	寸法（mm） W	D	H	備考
⊙流し台	・1200 ・1500 ⊙1800	・550 ⊙600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
⊙コンロ台	⊙750 ⊙650	・550 ⊙600 ・650	⊙650 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ※1段式　・

形状
※図示による　・

23．旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
※アルミニウム合金製 ・	※テーパー式 ・同一断面式		※ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

24．旗竿受金物

材種
※ステンレス製（SUS 304)
・

25．車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

26．フェンス

フェンスの種類
・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ
・図示による　・

27．プレキャスト コンクリート (20.3.3、4)

コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m2を満足する調合強度
・図示による
配筋
※配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・図示による
取付け方法
※図示による　・

28．間知石及び コンクリート 間知ブロック 積み (20.4.2、3)

	材種	種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート 間知ブロック	―		・A ・B	

積み方
※谷積み　・布積み
目塗り
・図示による
伸縮調整目地
材種
・図示による　・
厚さ
・図示による　・

29．鋼製書架及び 物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架 ・鋼製物品棚	JIS S 1039 の規格による	・1種　・2種　・3種 ・4種　・5種　・6種

㉚ 屋内掲示板

枠の材質
※アルミニウム製
・
表面の材質
※塩ビ発泡シート張り
⊙マグネットシート張り

㉛ 洗面カウンター

材種
⊙陶器
・人工大理石
奥行き(mm)
・約450　⊙約600

32．防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨き板ガラス ・ 線入り磨き板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式 （巻取り型）	※不燃布 （不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

33．屋外掲示板

照明器具
・有り　・無し
施錠
・有り　・無し
製造所
・

㉞ 収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆　・
材質、形状、寸法
※図示による　・

21 排水工事

1．屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表 21.2.1、2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋 コンクリート管	外圧管（1種）	・B形管 ・	・図示による ・	
・硬質ポリ塩化 ビニル管	・RS-VU		・図示による ・	
	・VP		・図示による ・	
	・VU		・図示による ・	

基床の厚さ及び種類
・図示による　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※接着剤　・
側塊の形状及び寸法
・図示による　・
排水桝の種類
・図示による　・
砂地業に用いる材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度(N/mm2)
※18　・
スランプ(cm)
※15又は18　・
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295　・
・排水枡が現場打ちの場合の足掛け金物
※標準仕様書21.2.2(6)(ｵ)
材質
・ステンレス製
・鋼製
・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
・
(砂を用いる場合の粒度試験)
・行う　・行わない

2．鋳鉄製ふた (21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マン ホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（ﾊﾟｯｷﾝ式） ・密閉形（ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・中ふた付き密閉形 （ﾃｰﾊﾟ・ﾊﾟｯｷﾝ式） ・	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

③ グレーチング (21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ
※鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ・桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・細目 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・普通目 ・細目
⊙ｽﾃﾝﾚｽ製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた（横断用） ・溝ふた（側溝用） ⊙桝ふた ・U字溝用	・歩行用	・
			⊙T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・

4．街きょ、縁石 及び側溝

街きょ、縁石、側溝 (21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状・寸法
・縁石	・図示による　・
・L形側溝	・図示による　・
・U形側溝	・図示による　・
・U形側溝ふた	・図示による　・
・	・図示による　・

砂地業に用いる材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
※再生クラッシャラン　・切込砂利又は切込砕石
砂利地業の厚さ（mm）
※100　・図示による

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A ― 1109
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-9	縮尺	―(A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

21 排水工事

・現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度（N/mm2）
※18
スランプ（cm）
※15又は18
・現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※SD295
凍上抑制層に用いる材料
・
（砂を用いる場合の粒度試験）
・行う　・行わない

5．埋戻し土

※B種　・　(21.2.1)

22 舗装工事

1．路床

路床の材料　(22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　※B種　・C種　・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・図示による ・
・凍上抑制層	※再生クラッシャラン ・クラッシャラン ・切込み砂利 ・砂（標準仕様書表21.2.2による）	・図示による ・
・フィルター層	標準仕様書22.2.3.(3)による	・図示による ・

（凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 ）
・行う
※行わない
・路床安定処理
安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定化処理用添加材料
種類
※普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰（・特号　・1号）
・消石灰（・特号　・1号）
添加量
・　kg/m3（CBR　・3以上　・　）
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

試験
路床土の支持力比（CBR）試験
・行う　※行わない
路床締固め度の試験
※行う　・行わない
現場CBR試験
・行う　・行わない

2．路盤

(22.3.2、3)(表 22.3.1)

路盤の厚さ
・図示による　・
路盤材料（標準仕様書表22.3.1による種別）
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
※再生クラッシャラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

3．アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　(22.4.2～6)(表 22.4.4)
※図示による　・
材料
アスファルト
・再生アスファルト
（標準仕様書表22.4.1による種類：・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・
試験
アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
※行わない

4．コンクリート舗装

コンクリート舗装の構成及び厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.1、3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート舗装	車路及び駐車場	・図示による	・図示による　・
	歩行者用通路	・図示による	※70

材料
コンクリート
※普通コンクリート、標準仕様書表22.5.1による
・以下による
コンクリートの種類（　）
設計基準強度（N/mm2）（　）
所定のスランプ（cm）（※8　・　）
粗骨材の最大寸法（mm）（　）
早強ポルトランドセメント
・使用する　※使用しない
注入目地材料
※低弾性タイプ
・高弾性タイプ
目地
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・以下による
種類　・
間隔　・（　）m程度ごと
構造　・図示による
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5．カラー舗装

・加熱系カラー舗装　(22.6.2～4)
構成・厚さ
・図示による　・
加熱系混合物の結合材
※アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
添加材
着色骨材（　）
自然石（　）
・常温系カラー舗装
工法
・ニート工法（配合その他：　）
・塗布工法　（配合その他：　）
着色部の下部
・アスファルト舗装
・コンクリート舗装
・
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6．透水性アスファルト舗装

舗装の構成　(22.7.2、3、6)
・図示による　・
材料
骨材
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材
（標準仕様書表22.4.1による種類：・60～80　・80～100）
舗装の平たん性
※著しい不陸がないもの
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う
※行わない

7．ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22.8.2、3)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
・普通平板(N) ・透水平板(P) ・保水性平板(M)	・300角 ・	※60 ・	※砂 ・ﾓﾙﾀﾙ	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm2)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	車路	・図示による ・	※80 ・	※5.0 ・	表面加工 ・
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P) ・保水性ブロック(M)	歩行者用通路	・図示による ・	※60 ・	※3.0 ・	

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ間の段差は3mm以内とする。
・

・舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	張り方	基層	基層の厚さ(mm)
・花こう岩 ・	・割石 ・図示による ・	・	・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版	※70 ・
				・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・

クッション材
※砂　・空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする。
・

・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)
・0.5～1.0　・
引張強さ
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
透水係数
・1.5×10^{-1}cm/sec以上　・

8．砂利敷き

種別　(22.9.2)
※A種（施工範囲：　・図示による　※通路　・　）
※B種（施工範囲：　・図示による　※建物周囲その他　・　）

23 植栽及び屋上緑化工事

1．植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験　(23.1.3)
・行う　・行わない
電気伝導度（EC）の試験
・行う　・行わない

2．植栽基盤の整備

樹木の植栽基盤の整備　(23.2.2、4)
・適用する　・適用しない

植栽	工法	有効土層の厚さ（mm）	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100　・120　・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80　・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60　・80） 樹高3m未満 （※50　・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示による ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備
・設ける（※図示による　・　）
・設けない

3．植込み用土

※現場発生土の良質土　(23.2.3)
・客土

4．土壌改良材

種類及び指定量等　(23.2.3)
・バーク堆肥
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・50L　・　）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
施工箇所
※植栽範囲　・図示による
使用量
植栽基盤面積1㎡あたり（・10L　・　）

5．樹木

樹種、寸法、株立数等　(23.3.2)
※図示による

6．支柱

支柱材　(23.3.2、3)
※丸太（間伐材）　・真竹
防腐処理方法
※加圧式防腐処理丸太材
形式
・図示による　・

7．幹巻き用材料

材料　(23.3.2)
※幹巻き用テープ　・わら及びこも

8．芝

種類　(23.4.2、3)
※コウライシバ　・ノシバ
芝張りの工法
平地
※目地張り　・べた張り
法面
※べた張り法面　・目地張り

9．吹付けけ種

(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/㎡）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

10．地被類

(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

11．新植、芝等の枯補償、移植樹木の枯損処置

(23.3.4、6)（23.4.7)(23.5.5)
新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の
枯補償の期間
※引渡しの日から1年　・無し　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年　・無し　・

12．屋上緑化

植栽基盤及び材料　(23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ
・図示による　・
排水層
・軽量骨材（層の厚さ：　）
・板状成形品
植込み用土
※改良土
・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等
※図示による　・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等
※図示による
支柱
・設置する
・設置しない
形式
・図示による
・
かん水装置
・設置する
・設置しない
種類
・図示による
・

24 総揮発性有機化合物（TVOC）測定仕様書

1．一般事項

試料採取および測定は，厚生労働省の「室内空気中化学物質の採取方法と測定方法」（以下「厚労省の測定方法」という。）の新築住宅の例に準拠して行う。

2．測定対象化学物質

測定対象化学物質は，下記４ 1)，2)の区分に従い，表の①から⑨の9物質及びＴＶＯＣとする。

3．測定方法

1）　クロマトグラム上で「n-ヘキサン」から「n-ヘキサデカン」までの部分に検出される物質のピーク値を「トルエン」に換算した値をＴＶＯＣ濃度とする。
2）　トルエン換算で 2.0μg/m３ 未満のピークは測定の対象としない。
3）　上位１０ピークについて物質を特定して濃度の測定を行う。

表　測定対象化学物質及び室内濃度指針値

化学物質名	室内濃度指針値			
①ホルムアルデヒド	100	μg/m３	0.08	ppm
②トルエン	260	μg/m３	0.07	ppm
③キシレン	200	μg/m３	0.05	ppm
④エチルベンゼン	3,800	μg/m３	0.88	ppm
⑤スチレン	220	μg/m３	0.05	ppm
⑥パラジクロロベンゼン	240	μg/m３	0.04	ppm
⑦テトラデカン	330	μg/m３	0.04	ppm
⑧アセトアルデヒド	48	μg/m３	0.03	ppm
⑨ノナナール	（暫定）41	μg/m３	0.007	ppm
⑩フタル酸ジ-n-ブチル	17	μg/m３	0.0015	ppm
⑪フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100	μg/m３	0.0063	ppm
⑫クロルピリホス	1	μg/m３	0.00007	ppm
⑬ダイアジノン	0.29	μg/m３	0.00002	ppm
⑭フェノブカルブ	33	μg/m３	0.0038	ppm
⑮総揮発性有機化合物（ＴＶＯＣ）	400	μg/m３	（暫定目標値）	

4．測定する室

1）　１４物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室等
・　室名：

2）　９物質及びＴＶＯＣ濃度を測定する室
・　室名：

・　屋外(周囲の建物から離れた場所１か所)

5．測定結果等報告書の提出

次の事項を記載した報告書を２部提出する。
1）　測定結果（アセトアルデヒドについては，試料採取時の気温が20℃に満たない場合には，「厚労省の測定方法」に定める計算式で20℃，湿度50%に，ホルムアルデヒドについては25℃，湿度50%に補正した濃度を報告すること。）
2）　試料採取時の状況（気温・湿度(屋外，室内)，天候、風の状況、日射進入状況，採取年月日・時間，窓の開閉状況，機械換気量，工事完成から試料採取までの日数）
3）　試料採取方法，測定方法，使用した測定機器
4）　ＴＶＯＣ濃度の算出に使用したクロマトグラムの写し

6．その他

表の化学物質①から⑤のうち，いずれかの物質の濃度が室内濃度指針値を超える場合は，工事目的物の引渡しを受けない。
ＴＶＯＣの測定の結果，暫定目標値を超える場合は，発生原因の究明及び汚染物質の発生を低減するための対策について，協議を行うこと。

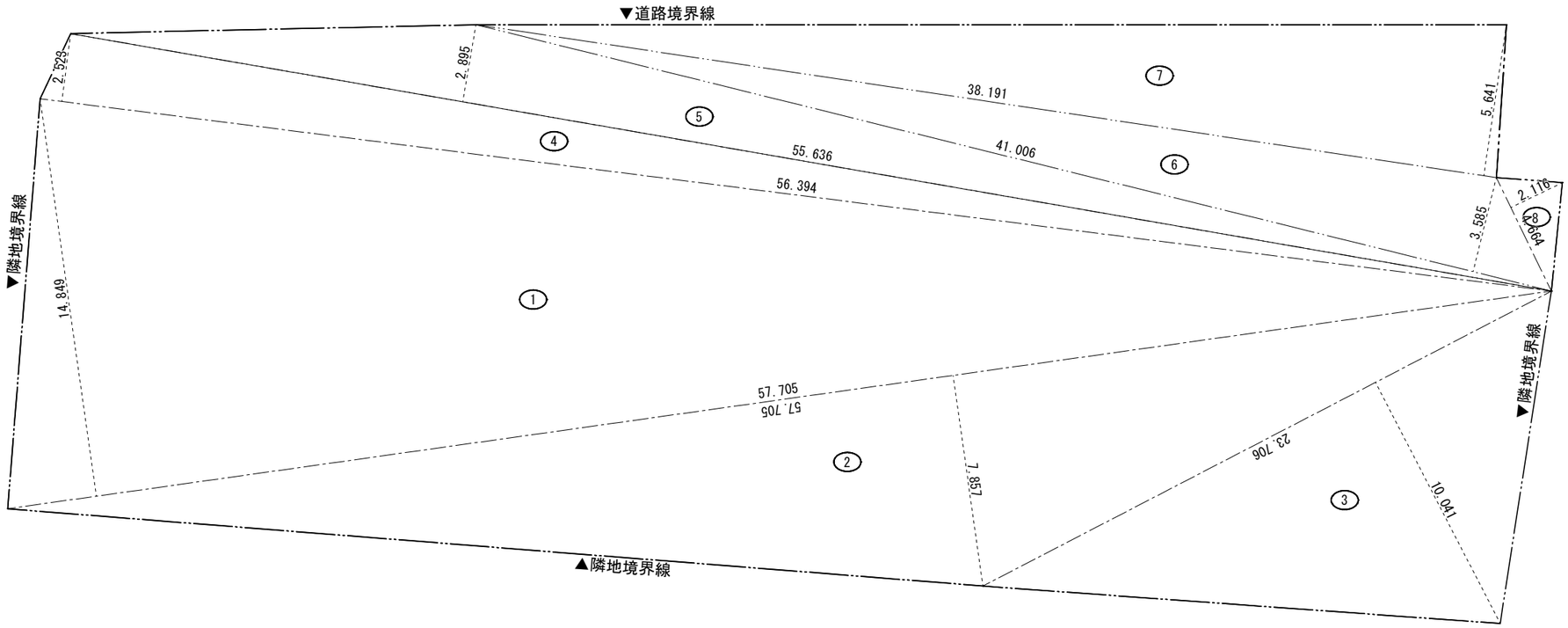
UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A ― 1110
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築工事特記仕様書-10	縮尺	―(A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

建設場所
宮城県加美郡色麻町高城字宮14番地1

案内図 S＝1：18000

出典：国土地理院地図（maps.gsi.go.jp）



番号	底　辺	高　さ	倍　面　積	面　積
1	57.705	14.849	856.861545	428.4307725
2	57.705	7.857	453.388185	226.6940925
3	23.706	10.041	238.031946	119.0159730
4	56.394	2.523	142.282062	71.1410310
5	55.636	2.895	161.066220	80.5331100
6	41.006	3.585	147.006510	73.5032550
7	38.191	5.641	215.435431	107.7177155
8	4.664	2.116	9.869024	4.9345120
合　計				1111.970461
敷地面積				1111.97 m²

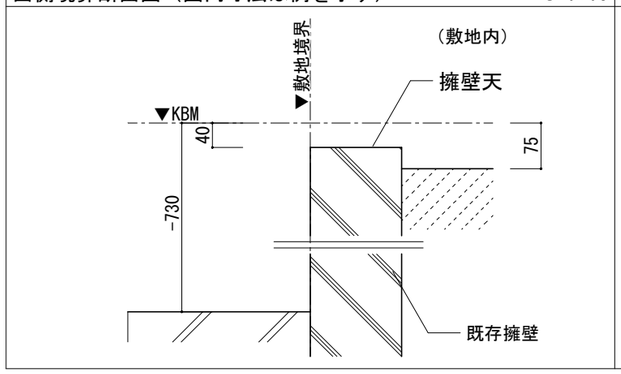
敷地求積図 S＝1：200

N

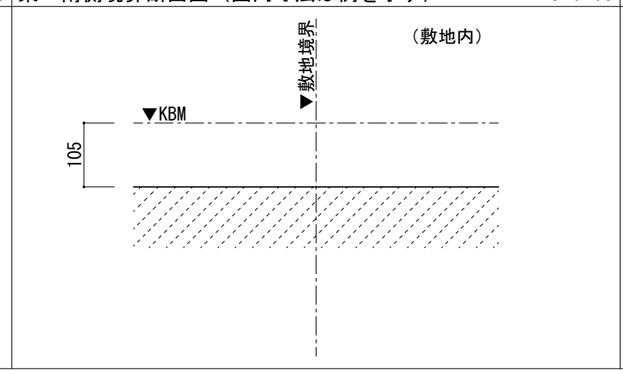
UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 1201
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	案内図・敷地求積図	縮尺	図示（A3）
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

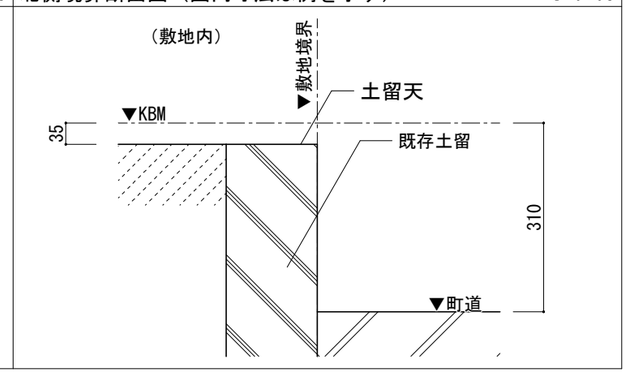
西側境界断面図（図内寸法は例を示す） S=1:10

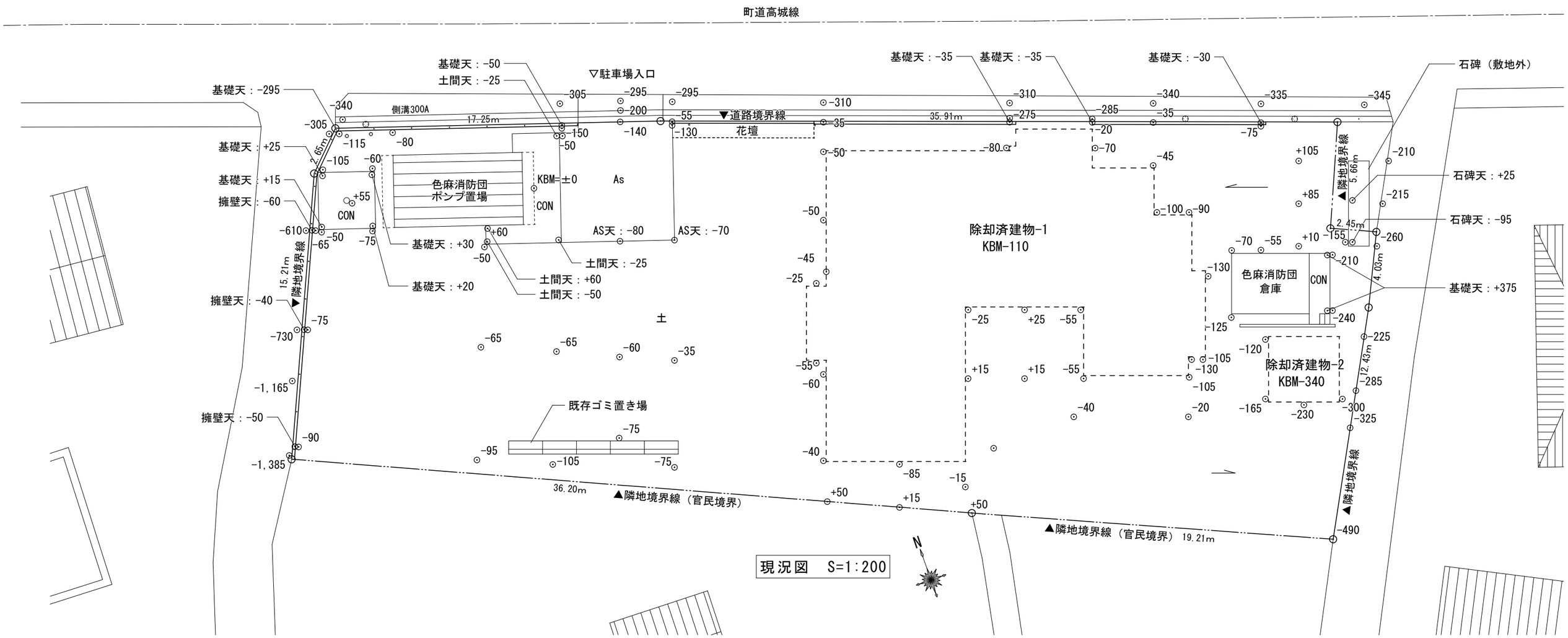


東・南側境界断面図（図内寸法は例を示す） S=1:10



北側境界断面図（図内寸法は例を示す） S=1:10



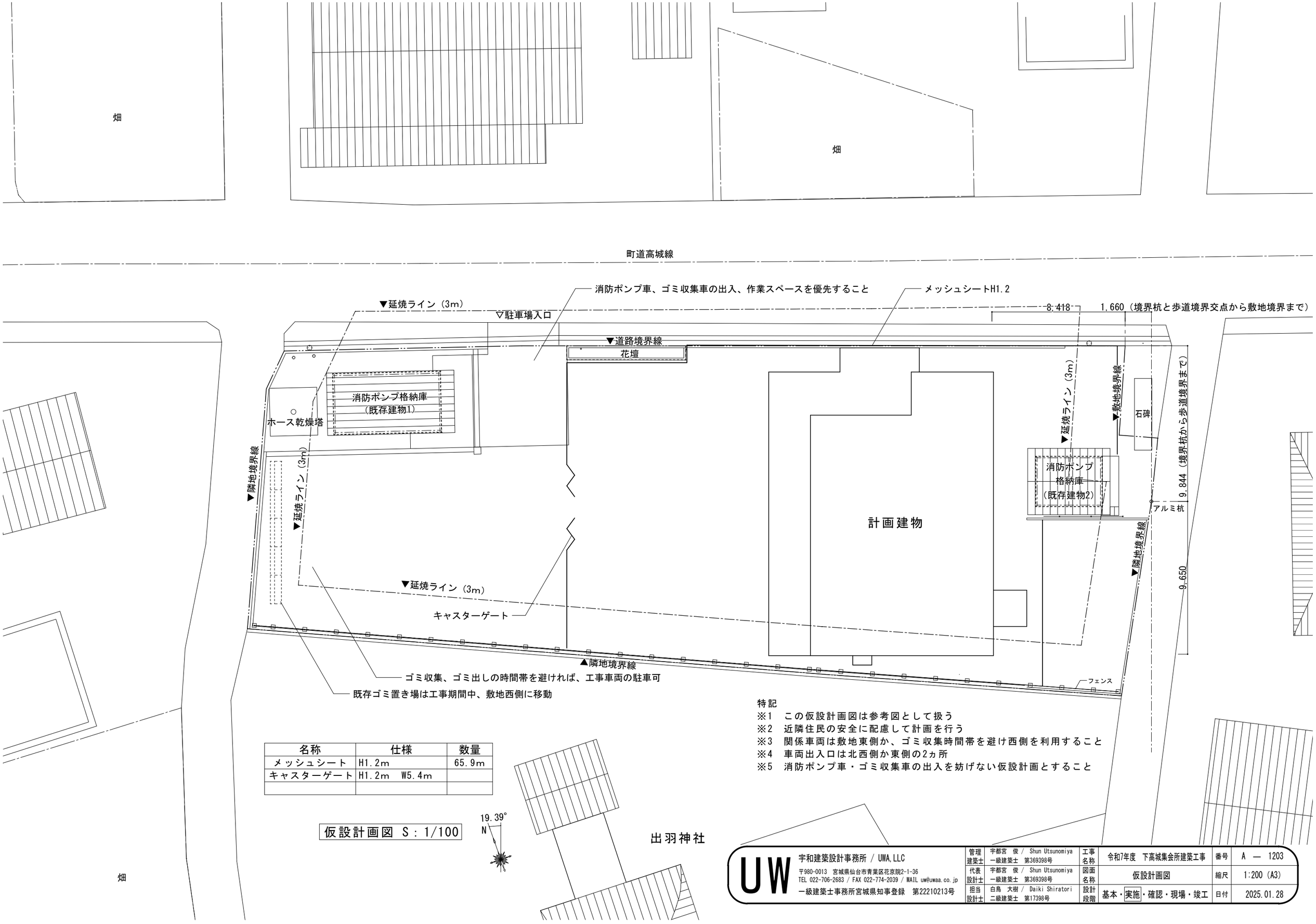


現況図 S=1:200

UW	宇和建築設計事務所 / UWA,LLC 〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36 TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp 一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号	管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 1202
		代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	現況図	縮尺	1:200 (A3)
		担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

特記事項

※-1：除却済建物-1,-2のKBMは想定である。（設計中は現存のため）、工事着手時に測量を行うこと。



名称	仕様	数量
メッシュシート	H1.2m	65.9m
キャスターゲート	H1.2m　W5.4m	

仮設計画図 S：1/100

特記
※1　この仮設計画図は参考図として扱う
※2　近隣住民の安全に配慮して計画を行う
※3　関係車両は敷地東側か、ゴミ収集時間帯を避け西側を利用すること
※4　車両出入口は北西側か東側の2ヵ所
※5　消防ポンプ車・ゴミ収集車の出入を妨げない仮設計画とすること

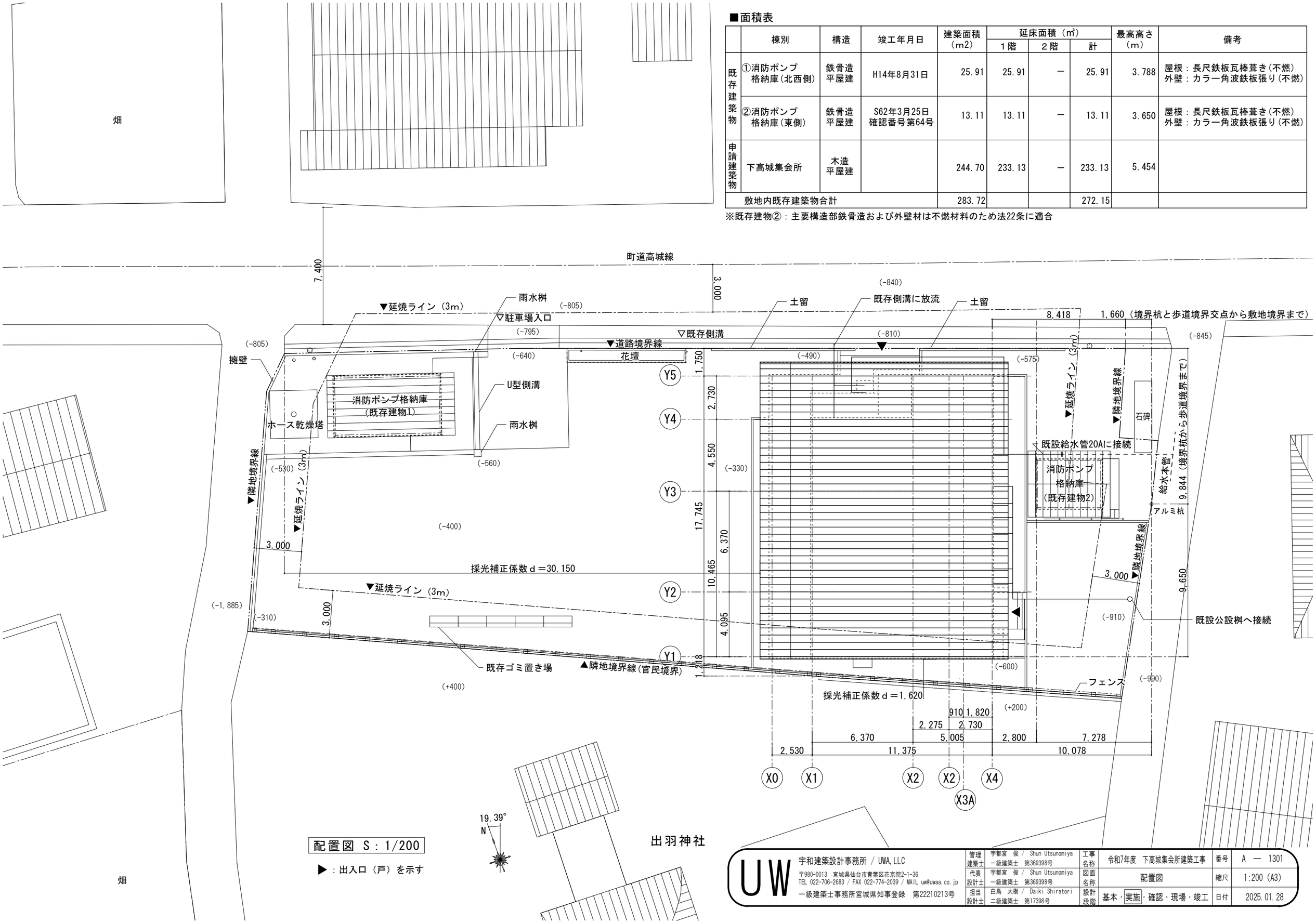
UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1203
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	仮設計画図	縮尺	1:200 (A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

■面積表

	棟別	構造	竣工年月日	建築面積（m2）	延床面積（㎡） 1階	2階	計	最高高さ（m）	備考
既存建築物	①消防ポンプ格納庫(北西側)	鉄骨造 平屋建	H14年8月31日	25.91	25.91	—	25.91	3.788	屋根：長尺鉄板瓦棒葺き(不燃) 外壁：カラー角波鉄板張り(不燃)
既存建築物	②消防ポンプ格納庫(東側)	鉄骨造 平屋建	S62年3月25日 確認番号第64号	13.11	13.11	—	13.11	3.650	屋根：長尺鉄板瓦棒葺き(不燃) 外壁：カラー角波鉄板張り(不燃)
申請建築物	下高城集会所	木造 平屋建		244.70	233.13	—	233.13	5.454	
敷地内既存建築物合計				283.72			272.15		

※既存建物②：主要構造部鉄骨造および外壁材は不燃材料のため法22条に適合

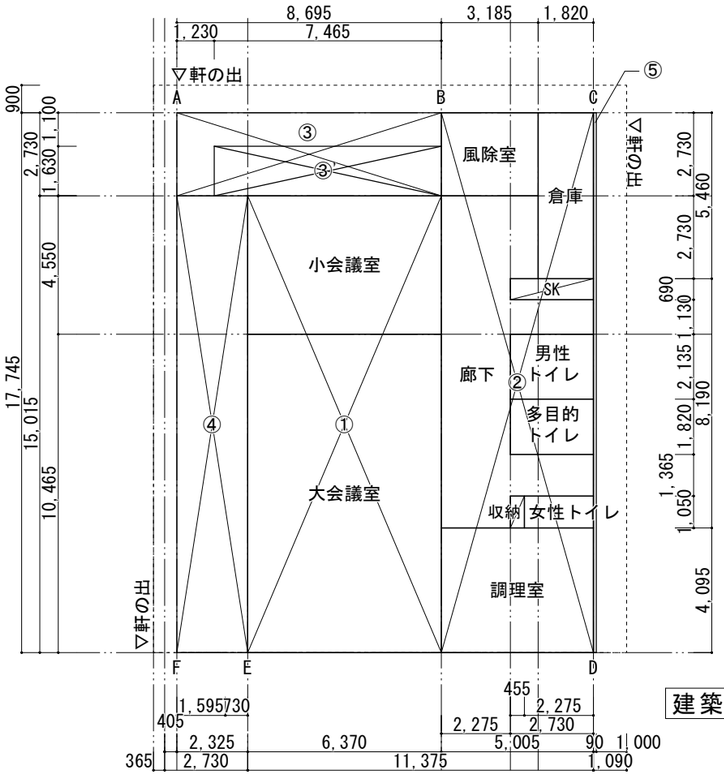


配置図 S：1/200

▶：出入口（戸）を示す

UW
宇和建築設計事務所 / UWA, LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 1301
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	配置図	縮尺	1:200 (A3)
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



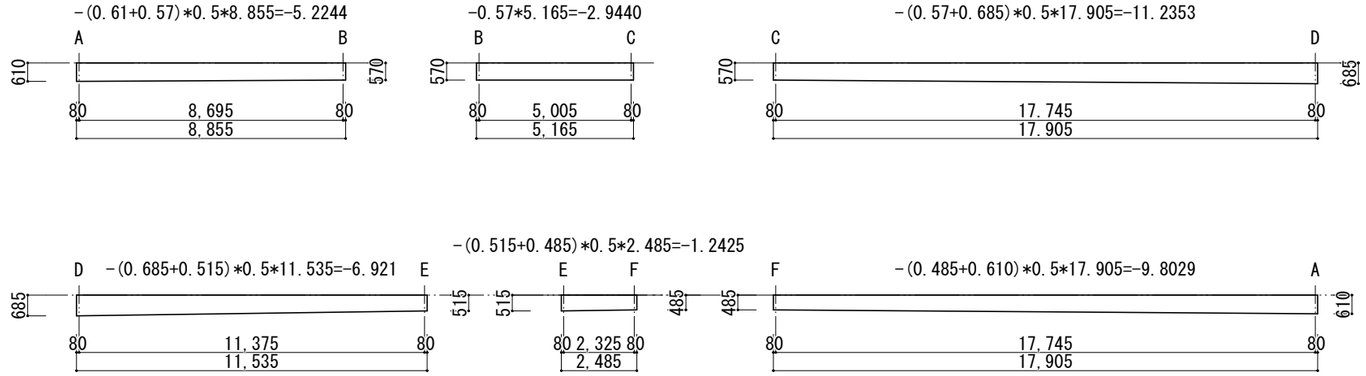
建築面積＝①+②+③+④+⑤
＝(6.37*15.015)+(5.005*17.745)
+(2.73*8.695)+(2.325*15.015)
+(0.09*17.745)
＝244.7036　　改め　244.70m2

内部床面積＝①+②
＝(6.37*15.015)+(5.005*17.745)
＝184.4593　改め　184.45m2

外部床面積＝③'+④+⑤
＝(7.465*1.630)+(2.235*15.015)
+(0.09*17.745)
＝48.67488　改め　48.67m2

延床面積＝内部床面積+外部床面積
＝233.1342　改め　233.13m2

建築・延床面積求積図 S＝1：200



面積：-5.22445-2.94405-11.23539-6.92100-1.24250-9.802988＝-37.37038m2
周長：8.855+5.165+17.905+11.535+2.485+17.905＝63.85m
平均地盤面＝面積/周長＝-37.37038/63.85＝-0.585m
∴平均地盤面＝FL-585mm
よって不利側のS.GL＝FL-600mmを平均地盤面とする

平均地盤面算定図 S＝1：200

法チェック表

階数	室名	室面積計算表					室面積	居室	採光面積（法28条第1項、法35条、法35条の3）														換気面積（法28条第2項）										無窓の居室の判定（法35条、令116条の2）								
									必要面積		有効面積						補正係数(外側に0.9m以上の縁側に類するものがある場合、0.7掛け)				合計	判定	必要面積		有効面積							判定	必要面積		有効面積							
		X方向		Y方向					割合	面積	記号	幅	高さ	個数	各面積	実面積	d	h	d/h*6-1.4	改め			割合	面積	記号	幅	高さ	個数	各面積	合計	計		割合	面積	記号	幅	高さ	個数	各面積	合計	計	
1階	風除室	3.185	×	2.730	＝	8.69505	8.695																																	
	廊下	3.185	×	2.730	＝	8.69505	34.138																																	
		2.275	×	8.190	＝	18.63225																																		
		2.730	×	1.130	＝	3.0849																																		
		2.730	×	1.365	＝	3.72645																																		
	小会議室	6.370	×	4.550	＝	28.9835	28.983	○	1/20	1.45	AD-1A	3.47	1.80	1	6.24	6.24	30.15	1.10	114.13	3.0	18.72	０Ｋ	1/20	1.45	AD-1A	1.47	1.68	1	2.46	2.46	2.46	０Ｋ	1/50	0.58	AD-1B	0.80	0.50	2	0.40	0.80	0.80	０Ｋ
	会議室	6.370	×	10.465	＝	66.66205	66.662	○	1/20	3.33	AD-1A	3.47	1.80	1	6.24	6.24	30.15	1.10	114.13	3.0	18.72	０Ｋ	1/20	3.33	AD-1A	1.47	1.68	1	2.46	4.35	4.35	０Ｋ	1/50	1.33	AD-1B	0.80	0.50	2	0.40	0.80	1.44	０Ｋ
																									AD-2A	1.13	1.68	1	1.89						AD-2B	0.64	0.50	2	0.32	0.64		
	倉庫	1.820	×	5.460	＝	9.9372	9.937																																	
	男性トイレ	2.730	×	2.135	＝	5.82855	5.828																																	
	多目的トイレ	2.730	×	1.820	＝	4.9686	4.968																																	
	女性トイレ	2.275	×	1.050	＝	2.38875	2.388																																	
	調理室	5.005	×	4.095	＝	20.495475	20.495	○	1/20	1.02	AW-5	2.00	0.96	1	1.92	1.92	1.62	2.32	2.78		5.33	０Ｋ	1/20	1.02	AW-5	0.89	0.96	1	0.86	2.30	2.30	０Ｋ	1/50	0.41	AW-5	0.90	0.41	1	0.36	0.36	0.57	０Ｋ
																									AD-4	0.72	2.00	1	1.44						AD-4	0.72	0.30	1	0.21	0.21		
	収納	2.730	×	0.690	＝	1.8837	1.883																																	
	SK	0.455	×	1.050	＝	0.47775	0.477																																	

特記事項
※1　非常用照明について、平12告示第1411号より、各居室から屋外への出口に至る歩行距離が30m以下であることが明らかなため非設置
※2　延焼の恐れのある部分の外壁の仕様
OW-1　窯業系サイディングｔ16(屋外側) + HGGW16K + GB-Rt12.5(屋内側)：平12告示第1359号第1項一号ロ(2)
OW-3　ガルバリウム鋼板ｔ0.4(NM-8697) + 下地ダイライトＭＳｔ9.0(QM-9142)：平12告示第1362第1項三号ロ(3)

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1302
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	建築面積・延床面積求積表 平均地盤面算定図、法規ﾁｪｯｸｼｰﾄ	縮尺	1:200 (A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

本表は本工事に用いる内外装仕上げを一括して表す。　　　　凡例・共通事項・材料表に記載の事項は本表以外の設計図にも適用する。

仕 上 凡 例

区分	記号	名称	品質・規格・寸法など	認定番号（参考）	備考
床 壁 天井	W	木（下地）	無垢材以外はJAS認定品とする		
	C	コンクリート（下地）	JIS認定工場品とする	不燃：H12建告1400号	
	M	モルタル（下地）			
	S、LGS	鉄骨（下地）、軽量鉄骨下地	JIS認定品とする	不燃：H12建告1400号	
	CB	軽量コンクリートブロック	JIS認定品とする	不燃：H12建告1400号	
	PC	プレキャストコンクリート	JIS認定品とする	不燃：H12建告1400号	
	ALC	軽量発泡コンクリート	JIS A 5416	不燃：H12建告1400号	外壁：ｔ75以上（H12建告1399号：耐火2時間）
	ECP	押出し成形セメント板	JIS A 5441	不燃：H12建告1400号	
	TC	タイルカーペット			
	GB−R	石膏ボード（不燃）	ｔ12．5mm，15mm，21mm	NM−8619	
		石膏ボード（準不燃）	ｔ9．5mm	QM−9828	耐火間仕切部はGB-R-Hｔ9.5と読み替える
	GB−R−H	普通硬質石膏ボード（不燃）	ｔ9．5mm，12．5mm，15mm	NM−9645（個別認定）	
	GB−S	シージング石膏ボード（不燃）	ｔ12．5mm	NM−9639（個別認定）	
		シージング石膏ボード（準不燃）	ｔ9．5mm，12．5mm，15mm	QM−9826	排煙告示適用居室は不燃
	GB−NC	不燃積層石膏ボード	ｔ9．5mm	NM−0441	内装不燃の天井に用いる
	GB−F（W）	強化石膏ボード　（W）：防水タイプ	ｔ12.5mm，15mm，21mm、24mm	NM−8615	
	GB−D	化粧石膏ボード（不燃／準不燃）	ｔ9．5mm	NM−0879／QM−9824	スクエアトーン、ステアトーンライト
	GB−P	有孔化粧石膏ボード	ｔ9．5mm（天井）、ｔ12．5（壁）	NM−0879／NM−9822	タイガートーン
	DR	ロックウール吸音板（岩綿吸音板）	ｔ12mm，9mm	NM−9972	ソーラトンスターダスト4柄
	FK	ケイ酸カルシウム板	ｔ5mm〜15mm	NM−2773	
	FC	繊維強化セメント板	JIS A 5430　ｔ4,5,6,8mm	不燃：H12建告1400号	
	HW（NW）	硬質（普通）木毛セメント板	JIS A 5404　ｔ15,20,25,30mm	QM−9020、9022	
	RW	吹付けロックウール	比重0.28以上	NM−8601	
	GW	グラスウール	16K、24K、32K、40K	NM−4338	密度は特記による
	GWHG	高性能グラスウール	16K、24K、32K、40K		密度は特記による
	GW−B	グラスウールボード　ガラスクロス額貼	JIS A 6301　24K、32K、40K　ｔ25,50	NM−8606	密度は特記による
塗料 基材 同等	EP	合成樹脂エマルジョンペイント			
	EP−G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント			
	SOP	合成樹脂調合ペイント			
	DP	耐候性塗料（フッ素）			
	CL	クリアクラッカー			
	UC	ウレタン樹脂ワニス			
	OS	オイルステイン（ふきとり）			
	WS	水性ステイン（ふきとり）			
	WP	木材保護塗装			
内装		ビニルクロス（不燃）	不燃下地	NM−1096	
		ビニルクロス（準不燃）	不燃下地／準不燃下地	QM−9401	
	XPS	押出し法ポリスチレンフォーム板	JIS A 9521　特記無き限り3種ｂ		
	EPS	ビーズ法ポリスチレンフォーム板	JIS A 9521　特記無き限り1号		
	PUF	硬質ウレタンフォーム保温板	JIS A 9521　特記無き限り1種4号		
	AUF	現場発泡ウレタンフォーム	JIS A 9526　ノンフロンタイプA1種		

共 通 事 項

下記事項は共通とし指示がなくとも適用する。
但し異なる指示のある場合を除く。

【鉄筋コンクリート工事】
- ■ 躯体床レベルは仕上表による。
- ■ 型枠緊結金物はコーン付のものとし、コーン跡は既成セメント系充填用コーンを樹脂ノロにて充填する。
- ■ 地下外壁の内側コンクリート面の型枠緊結金物は防錆塗装の上、防水モルタル詰めとする。
- ■ コンクリート化粧打放し
  ウレタン樹脂塗装型枠（新品）ｔ12を使用し、施工計画・割付け図作成し、監理者の承認を得ること。
- ■ コンクリート打放し面の補修
  不陸2．0mm／M以内とする。化粧打放し面の補修は、監理者の指示による。
- ■ コンクリート化粧打放し面には化粧（伸縮）目地を設けること。　　　@3，600程度
- ■ コンクリートふかし寸法（mm）は以下による。かぶりは標準仕様書に準ずる

仕上	A種（化粧打放）	B種（モルタル補修）	C種（GL工法）	C種
外部	20	20	—	20
内部	10	10	0	10

【鉄骨工事】
- ■ 外部に使用する部材は溶融亜鉛メッキを施すこと。被膜の傷や、溶接部は常温メッキ処理をすること。

【防水工事】
- ■ 室内防水押え等のコンクリートには溶接金網（6．0φ　100□）を打ち込む。
- ■ 外壁に取り付ける金物雨掛かり部周囲は、シール材（特記無き限りSR−2）を充填する。
- ■ 外壁を貫通する樋はツバ付貫通とし、外側の周囲はシール材を充填する。
- ■ 地中の基礎、基礎立上りの打ち継ぎ箇所には止水版または止水シールを打込みの上、シール材を充填のこと。
- ■ 設備部材のシール処理も建築工事にて防水を施すこと。
- ■ シール色の色見本を提出すること。基本的に取合う部材より暗色を使用すること。

【金属工事】
- ■ 内外部に使用するステンレスは、特記無き限りSUS304とする。
- ■ ステンレス特記なき限りヘアーライン仕上とする。
- ■ 外部スチール手摺は手摺長さに応じた熱膨張を考慮することを設けること。
- ■ 天井下地には適切に振れ止めを入れること。（特定天井に該当しない場合でも地震時の動きに配慮すること）
  天井野縁材と壁取り合い部には野縁受け（振れ止め）を設けること。

【左官工事】
- ■ コンクリート直押えはコンクリート打設時に特記無き限り金ゴテ押えとする。

【塗装工事】
- ■ 色見本を提出すること。その際実際使用する材料に塗装をすること。
  外壁塗装は、モックアップまたは実際の外壁に塗装をし、承認を得ること。
- ■ 壁面の塗装はローラー仕上げとする。
- ■ 天井の塗装はローラー仕上げとする。
- ■ 塗装は、不燃基材同等品とする。
- ■ 平滑に仕上げるようパテ処理は入念に行うこと。

【内装工事】
- ■ 床仕上げレベルは仕上表による。
- ■ ビニルシート等はノンワックスタイプとし、専用継ぎ目処理とする。
- ■ ボード張り、石膏プラスターのコーナー部はコーナービートを使用する。
- ■ 開口部をまたぐようにボード張りを行うこと。大開口（W1820以上）の場合、
  目地（3mm）を設けること。また、6.0m以上の長さの壁にも目地を設ける。
  目地位置は監督員、監理者と協議するものとする。
- ■ 耐火・準耐火構造の場合は下地の種類、壁の取合いに注意すること。
- ■ 特記無き限り異種材取合い部は、目透かし処理をすること。
- ■ 防火上主要な間仕切壁・遮音壁の石膏ボード二重張りの範囲は、
  屋根・スラブ・梁下端まで立上げとする。
  又、屋根・スラブ・梁との接合部はメーカー指定による防火処理を行う。
- ■ 天井廻り縁は特記なき場合は塩ビ目透かしタイプとする。
- ■ 曲面壁部分は、曲面用石膏ボードを使用すること。
- ■ 内部気密シートは、設備等の貫通部から漏気しないよう十分に注意すること。

【その他】
- ■ 建材・内装材・家具類等にに使用する材料はすべて、F☆☆☆☆とする。
- ■ 見え隠れ部、小屋裏部、接着剤等もすべてF☆☆☆☆とする。
- ■ 造り付けの家具以外の裏面は仕上げをすること。

外 部 仕 上 表

区分	部位	記号	仕上	区分	部位	記号	仕上	備考	共通
屋根	屋根	OR−1	長尺ガルバリウム鋼板ｔ0.4　縦はぜ葺き	外壁	外壁-1	OW−1	窯業系サイディングｔ16　留付金具（縦張り用）　通気胴縁　18*45（90）@455		外部スロープ手すり　アルミ既成品（詳細図による）
			ゴムアスファルトルーフィングｔ1.0、耐水合板ｔ12				透湿防水シート　構造用合板ｔ9.0 + GWHG16Kｔ100		
					外壁-2	OW−2	長尺ガルバリウム鋼板ｔ0.4　縦はぜ葺き		
							ゴムアスファルトルーフィングｔ1.0、耐水合板ｔ12		
					外壁-3	OW−3	長尺ガルバリウム鋼板ｔ0.4　縦はぜ葺き、下地用不燃高圧岩綿複層板ｔ9（ﾀﾞｲｹﾝ　ﾀﾞｲﾗｲﾄMS同等品）		
							通気胴縁 18*45、透湿防水シート、構造用合板ｔ9.0		
軒天		OC−1	ケイ酸カルシウム板ｔ6	外部床	犬走、勝手口ポーチ	OF−1	コンクリート打ち放し刷毛引き仕上		
					エントランスアプローチ				
					玄関ポーチ、スロープ	OF−2	ノンスリップタイル100角ｔ10　下地モルタルｔ30		

内 部 仕 上 表

位置	居室	室名	凡例	床	下地	仕上レベル スラブレベル	凡例	巾木	高さ	凡例	壁	下地	見切縁	凡例	天井	下地	天井高（FLより）	備考
1階		風除室	F−2a F−2g	長尺塩ビシートt2.0　普通合板ｔ9　構造用合板ｔ24下地 防滑性長尺塩ビシートt2.0　普通合板ｔ9　構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−4b	GB-Dｔ9.5+GWHG16Kｔ200	W	2,500	靴棚
		廊下	F−5b	複層フローリングt12.0　構造用合板ｔ24下地	W	FL=±0	H-3b	木巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−4b	GB-Dｔ9.5+GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,500	靴棚、樹脂製手すり、掲示板
	○	小会議室	F−4b	タイルカーペットt6.5　普通合板ｔ5.5 構造用合板ｔ24下地	W	FL=±0	H-3b	木巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−4b	GB-Dｔ9.5+GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,700	
	○	会議室	F−4b	タイルカーペットt6.5　普通合板ｔ5.5 構造用合板ｔ24下地	W	FL=±0	H-3b	木巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−4b	GB-Dｔ9.5+GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,700	飾り棚、<ホワイトボード>
		倉庫	F−2a	長尺塩ビシートt2.0　普通合板ｔ9　構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,500	木製棚
		男性トイレ	F−2b	長尺塩ビシートt2.0（トイレ用）　普通合板ｔ9 構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−4a	不燃ビニルクロス　GB-S t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,250	小便器×2、手洗い(アンダーカウンター) サイン札（アクリル製150角ピクトサイン）
		多目的トイレ	F−2b	長尺塩ビシートt2.0（トイレ用）　普通合板ｔ9 構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−4a	不燃ビニルクロス　GB-S t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,250	洋便器、手洗い、手すり、はねあげ手すり サイン札（アクリル製150角ピクトサイン）
		女性トイレ	F−2b	長尺塩ビシートt2.0（トイレ用）　普通合板ｔ9 構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−4a	不燃ビニルクロス　GB-S t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,250	洋便器、手洗い(アンダーカウンター) サイン札（アクリル製150角ピクトサイン）
	○	調理室	F−2a	長尺塩ビシートt2.0　普通合板ｔ9　構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−4a	不燃ビニルクロス　GB-S t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,500	流し付作業台、SUS作業台（下部棚付き） コンロ台、流し台、食器棚
		収納（共通）	F−2a	長尺塩ビシートt2.0　普通合板ｔ9　構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−2a	ビニルクロス貼り　GB-R t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,250	
		SK	F−2b	長尺塩ビシートt2.0（トイレ用）　普通合板ｔ9 構造用合板ｔ24下地	W	FL=-1.0	H-2	ビニル巾木	H=60	W−4a	不燃ビニルクロス　GB-S t12.5下地	W	塩ビ	C−3a	ビニルクロス貼り　GB-Rｔ9.5 GWHG16Kｔ200（断熱材）	W	2,250	

※-1：<○○○>は別途工事を示す。≪○○○≫は備品工事を示す。

内 部 仕 上 凡 例　（下地・上塗り・仕様・厚み・メーカー等は特記仕様書・仕上げ表による）

区分	記号	名称	記号	名称
床	F−1a	磁器質タイル貼　150角	F−1b	磁器質モザイクタイル貼
	F−1c	浴室用ノンスリップタイル	F−1d	石張り
	F−2a	長尺ビニル床シート（FS）	F−2b	長尺ビニル床シート(抗菌仕様、トイレ用)（FS）
	F−2c	長尺ビニル床シート(耐薬品)（FS）	F−2d	長尺ビニル床シート（衝撃吸収、耐荷重）（HS）
	F−2e	防滑性長尺塩ビシート（厨房用）（FS）	F−2f	発泡長尺塩ビシート（衝撃吸収）（KS）
	F−2g	防滑性長尺塩ビシート（外部用）（HS）	F−2h	
	F−3a	コンポジションビニル床タイル（CT）	F−3b	複層ビニル床タイル（CTS）
	F−3c	置き敷きビニル床タイル	F−3d	
	F−4a	タイルカーペット（TC−1）	F−4b	タイルカーペット（TC−2）
	F−4c	置き敷きタイルカーペット（FAF下地）	F−4d	ファブリックフロア
	F−5a	無垢フローリング貼り（板張り）	F−5b	複層フローリング貼り
	F−5c	パーケットフローリング貼り	F−5d	WPC複合フローリング貼り（上下足用）
	F−5e	南洋材貼り（外部デッキ等）	F−5f	再生木材貼り（外部デッキ等）
	F−6a	畳敷き（A種）	F−6b	建材畳敷き
	F−7a	ゴムタイル貼り（プレーン）	F−7b	ゴムタイル貼り（エンボス）
	F−8a	防塵塗装（浸透強化材）	F−8b	セメント系コンクリート強靭仕上塗床
	F−8c	耐熱水性硬質ウレタン樹脂塗床	F−8d	エポキシ樹脂塗床
	F−8e	合金骨材配合コンクリート強化材（打設時施工）	F−8f	
	F−9a	コンクリート金ゴテ	F−9b	コンクリート磨き（テラゾー仕上）
	F−9c	コンクリート目荒らし	F−9d	モルタル金ゴテ押さえ
	F−10a	下地合板現し	F−10b	フレキシブルボード仕上
	F−11a	リノリウムシート	F−11b	

区分	記号	名称	記号	名称	記号	名称
巾木	H−1a	磁器質タイル	H−1b	石張り（床又は壁同材）	H−2	ビニル巾木
	H−3a	木製巾木　SOP	H−3b	木製巾木　UC+WP	H−3c	木製巾木　UC
	H−4	ステンレス	H−5	タタミ寄せ	H−6	雑巾摺
	H−7	モルタル金ゴテ	H−8	コンクリート打ち放し仕上げ		

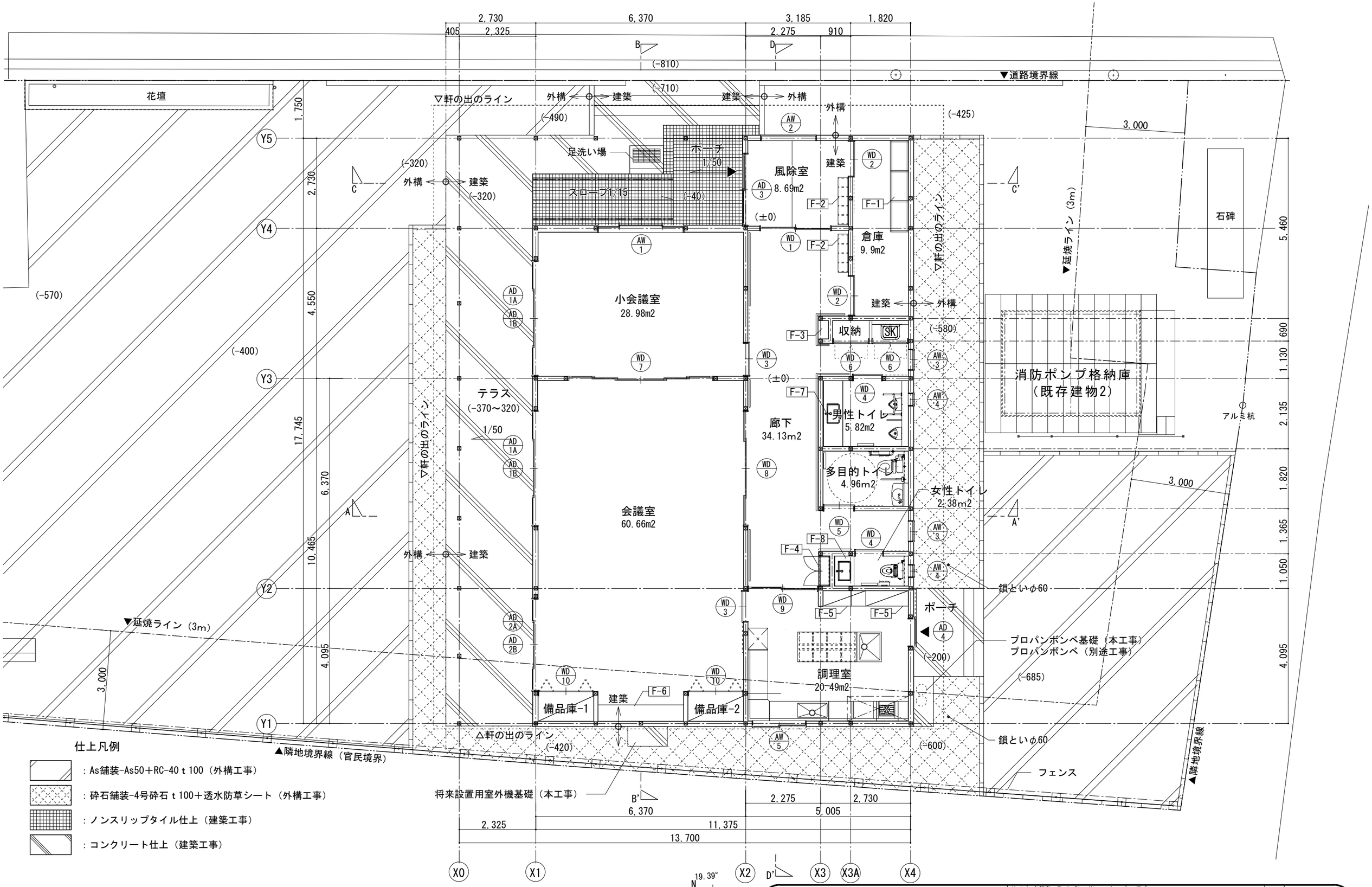
区分	記号	名称	記号	名称
壁	W−1a	EP塗装	W−1b	EP−G塗装
	W−2a	ビニルクロス貼り	W−2b	織物調クロス貼り
	W−2c	和紙調クロス貼り	W−2d	内装用塩ビシート張り
	W−3a	木板張り＋塗装（樹種・塗装種は仕上表による）	W−3b	シナ合板張り＋（塗装）
	W−3c	有孔シナ合板張り＋塗装	W−3d	抗菌塗装シナ合板張り
	W−3e	合板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）	W−3f	突板合板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）
	W−4a	不燃ビニルクロス貼り	W−4b	化粧ケイ酸カルシウム板貼り（アルミジョイナー）
	W−5a	メラミン化粧合板張り	W−5b	メラミン無垢板張り

区分	記号	名称	記号	名称
壁	W−6a	ポリエステル化粧合板張り	W−6b	
	W−7a	石張り（寸法は特記・仕上表による）	W−7b	人造石貼り（寸法は特記・仕上表による）
	W−8a	磁器質タイル貼り（寸法は特記・仕上表による）	W−8b	磁器質モザイクタイル貼り
	W−8c	陶器質タイル貼り（寸法は特記・仕上表による）	W−8b	陶器質モザイクタイル貼り
	W−9a	GW-B断熱ワッシャー留め（仕様・寸法は特記による）	W−9b	GW-Bフラットボタン留め（仕様・寸法は特記による）
	W−10a	下地現し（素地のまま）	W−10b	軸組・胴縁組み現し＋（素地または塗装）
	W−11a	コンクリート打ち放しA種	W−11b	コンクリート打ち放しA種＋保護塗装
	W−11c	コンクリート打ち放しB種	W−11d	コンクリート打ち放しB種＋モルタル塗り
	W−12a	内装薄塗材E	W−12b	内装厚塗材仕上げ
	W−12c	漆喰仕上げ		
	W−13	ホワイトボードシート（不燃）張り		
天井	C−1a	EP塗装	C−1b	EP−G塗装
	C−1c	NAD塗装	C−1d	
	C−2a	内装薄塗材E	C−2b	漆喰塗り
	C−3a	ビニルクロス貼り	C−3b	織物調クロス貼り
	C−3c	和紙調クロス貼り	C−3d	
	C−4a	化粧石膏ボード張り	C−4b	有孔化粧石膏ボード張り
	C−5a	ロックウール化粧吸音板張り（岩綿吸音板張り）	C−5b	ロックウール化粧吸音板張り（特殊模様）
	C−6a	シナ合板張り（塗装または素地）	C−6b	有孔シナ合板張り（塗装または素地）
	C−7a	板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）	C−7b	合板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）
	C−7c	有孔合板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）	C−7d	突板合板張り＋塗装（樹種は仕上げ表による）
	C−8a	GW-B断熱ワッシャー留め（仕様・寸法は特記による）	C−8b	GW-Bフラットボタン留め（仕様・寸法は特記による）
	C−8c	特殊形状GW-B（仕様・寸法、取付方法は特記による）		
	C−9a	下地現し（素地のまま）	C−9b	小屋組み現し（素地または塗装）
	C−10a	コンクリート打ち放しA種	C−10b	コンクリート打ち放しA種＋保護塗装
	C−10c	コンクリート打ち放しB種	C−10d	コンクリート打ち放しB種＋モルタル塗り

共通	特記無き間仕切り壁の縦胴縁は45*105（120）とする。
断熱材（外断熱、充填断熱）	
床下	XPS3種ｂ　ｔ50
外壁	GWHG16K　ｔ100（防湿フィルム付き）
天井	GWHG16K　ｔ200（防湿フィルム付き）

UW　宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 1303
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	仕上凡例・外部仕上表・内部仕上表	縮尺	−（A3）
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



仕上凡例

- ：As舗装-As50＋RC-40ｔ100（外構工事）
- ：砕石舗装-4号砕石ｔ100＋透水防草シート（外構工事）
- ：ノンスリップタイル仕上（建築工事）
- ：コンクリート仕上（建築工事）

記号凡例

- ▶ ：出入口（戸）を示す
- ⊖ ：工事区分を示す
- ⊙ ：建具符号を示す
- ○-○ ：家具符号を示す
- （数字）：1FLからのレベル差を示す

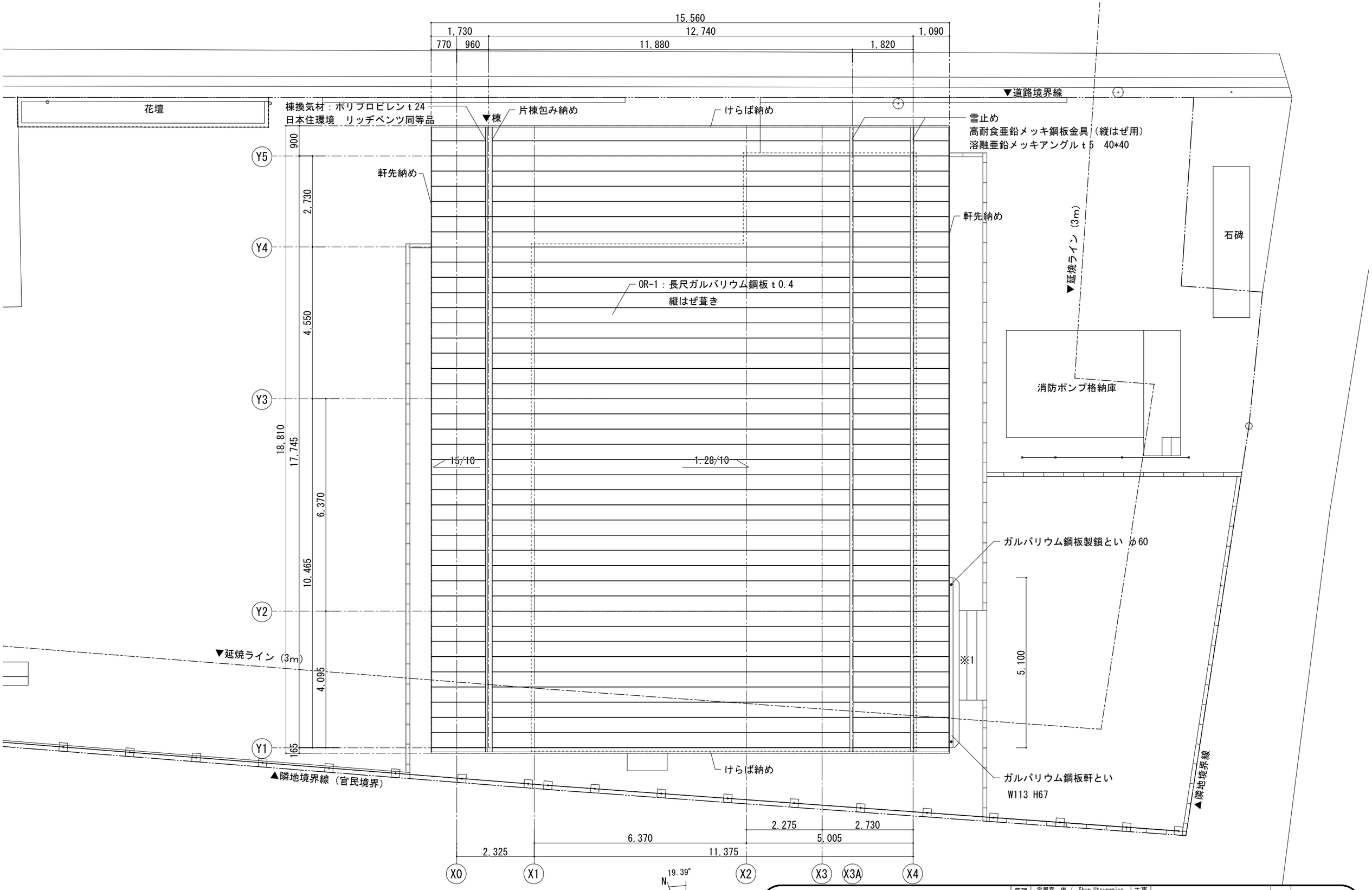
平面図 S：1/100

※外構工事は別途工事

N 19.39°

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 2001
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	平面図	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28

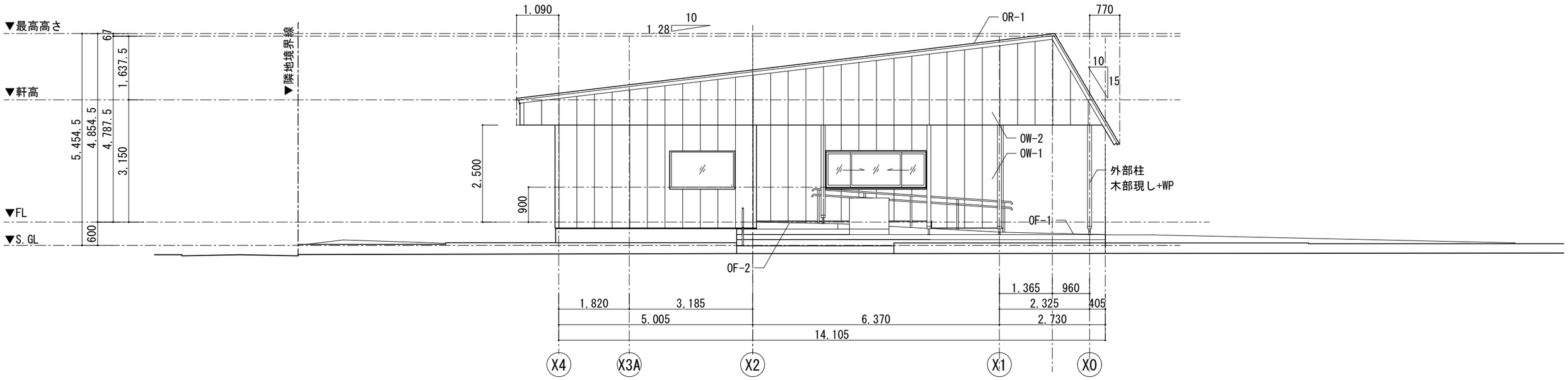


※1：ガルバリウム製軒樋範囲（Y1～Y2+1,000）

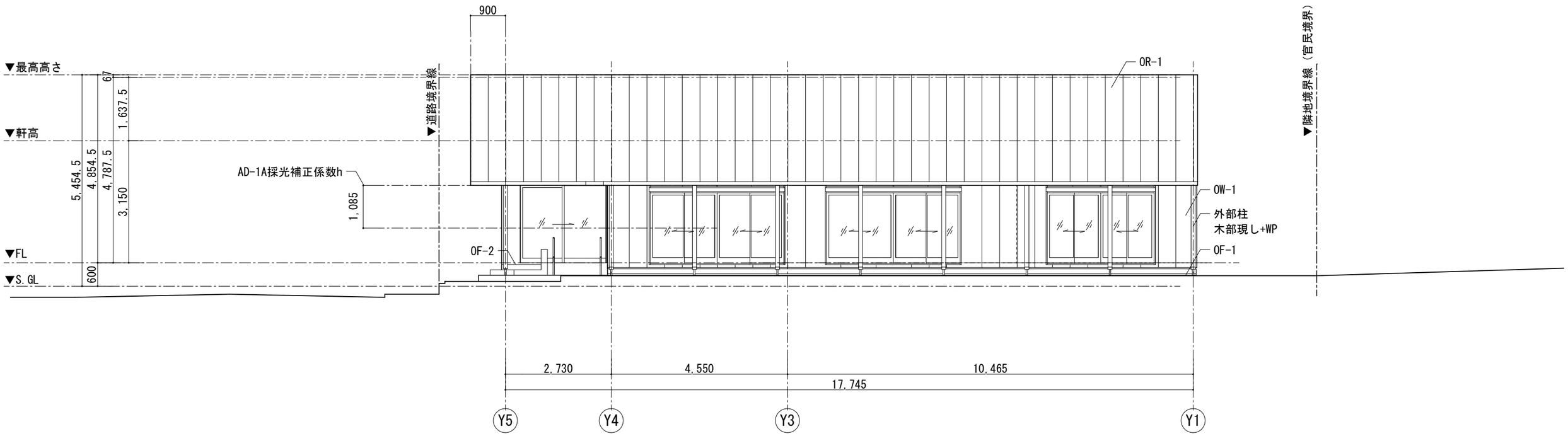
屋根伏図 S：1/100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 2002
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	屋根伏図	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



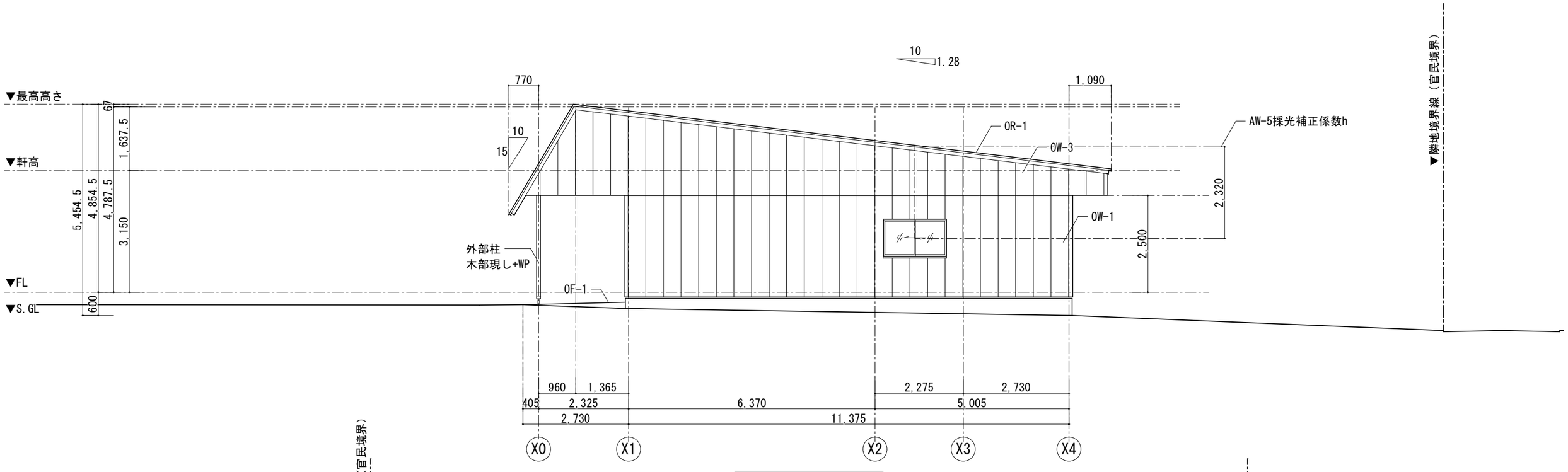
北立面図 S：1/100



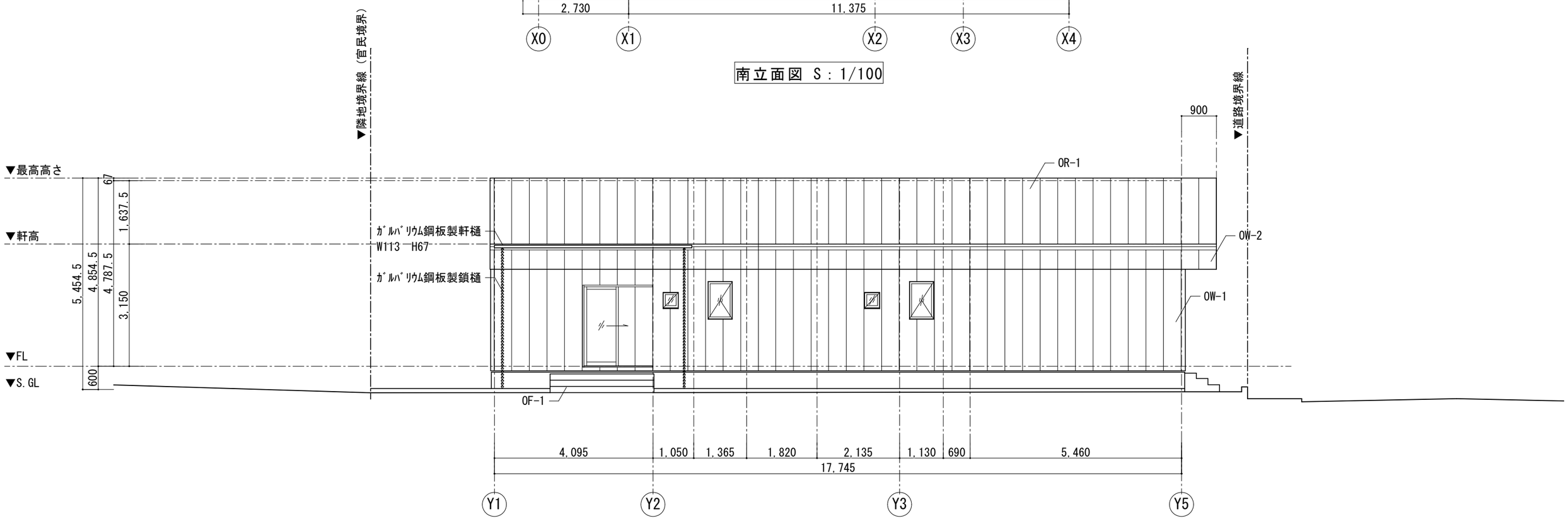
西立面図 S：1/100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 2101
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	立面図-1	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



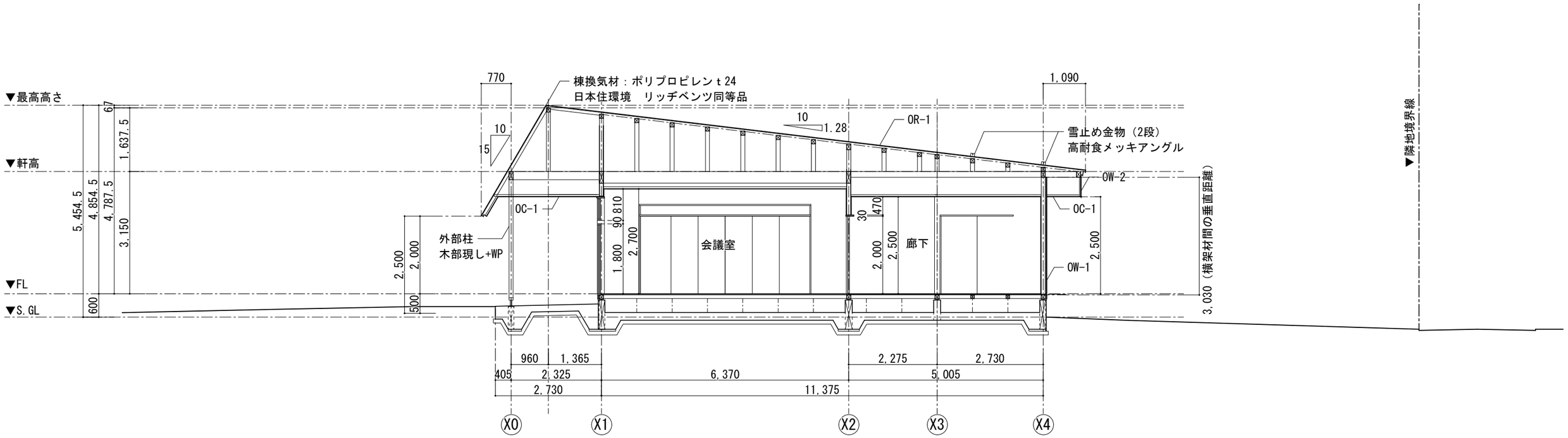
南立面図 S：1/100



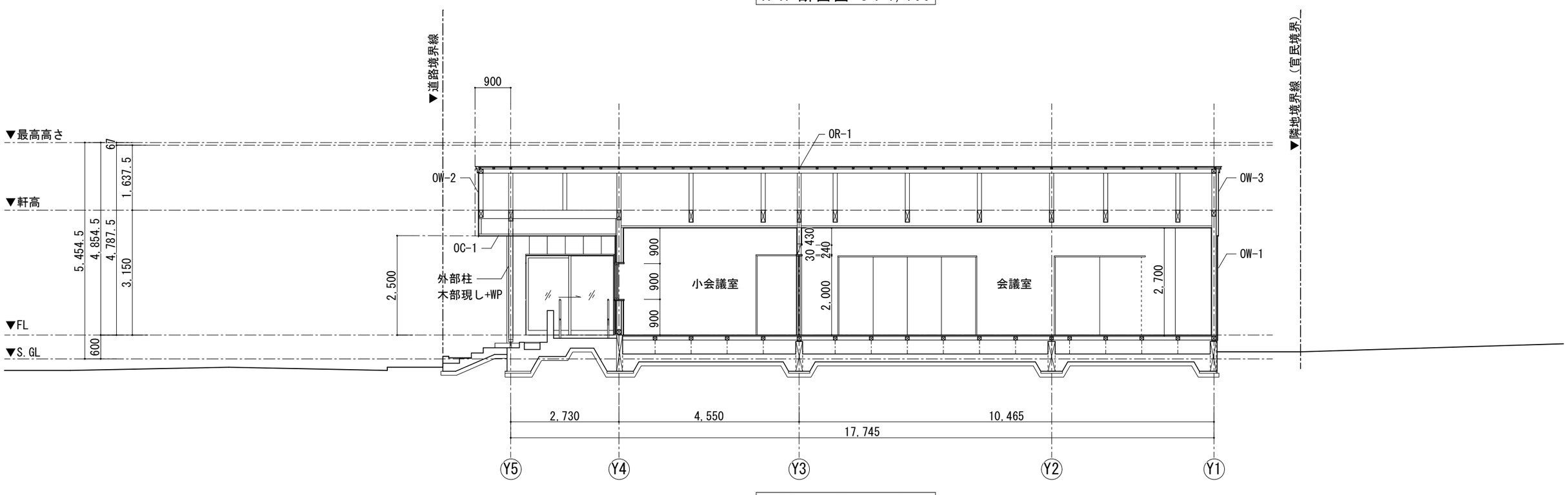
東立面図 S：1/100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録 第22210213号

管理建築士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	工事名称	令和7年度 下高城集会所建築工事	番号	A — 2102
代表設計士	宇都宮 俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士 第369398号	図面名称	立面図-2	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥 大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士 第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



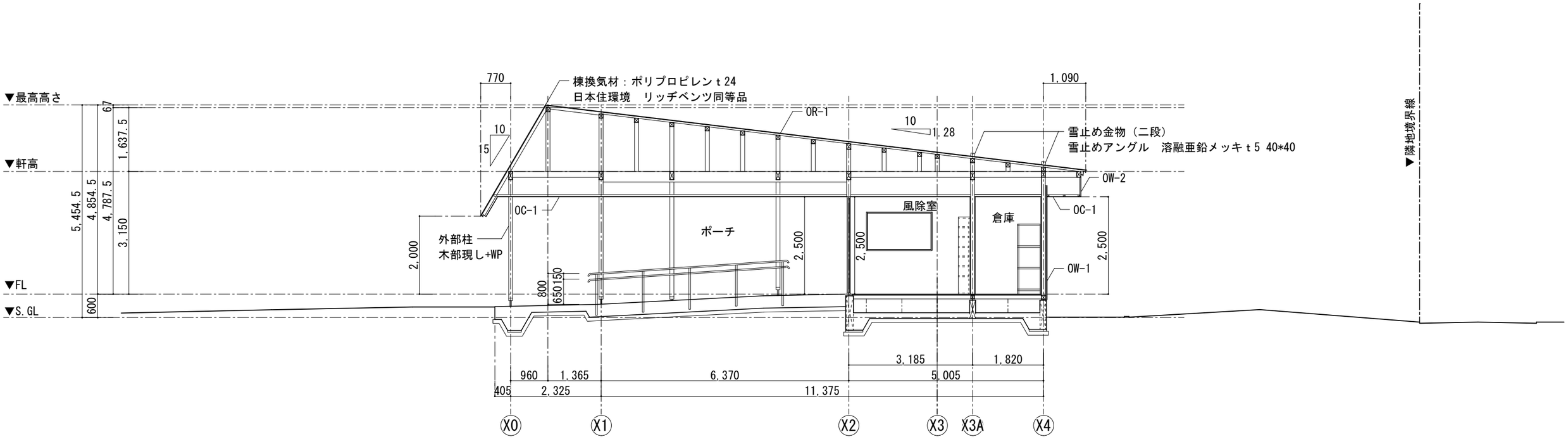
A-A'断面図 S：1/100



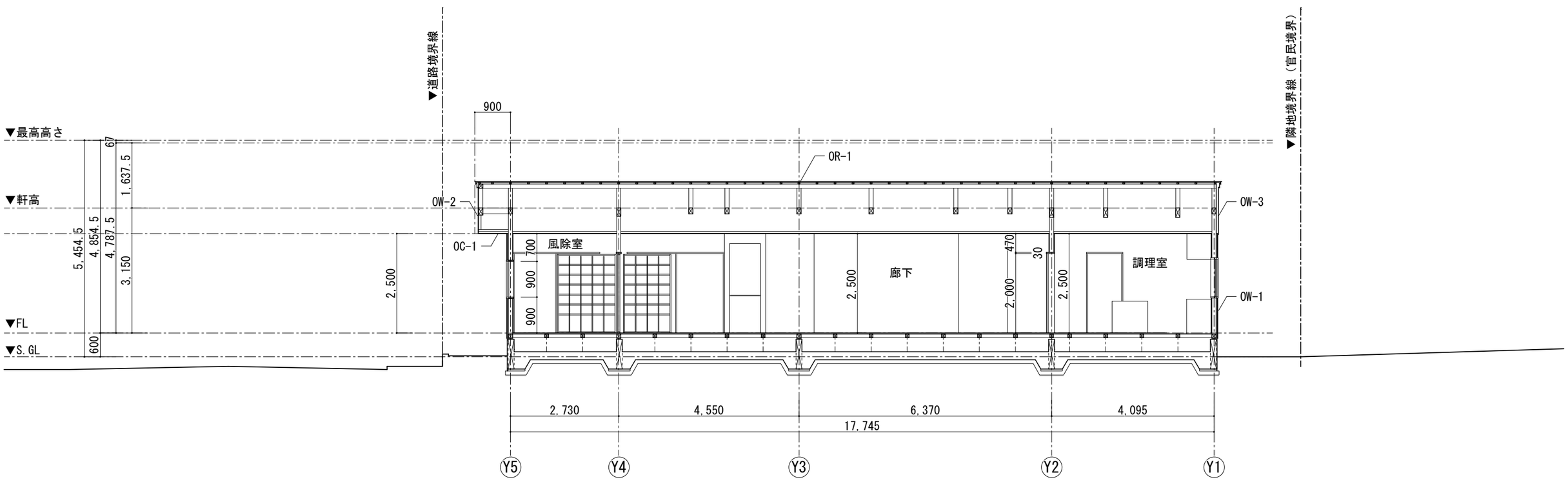
B-B'断面図 S：1/100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 2201
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	断面図-1	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28



C-C'断面図 S：1/100



D-D'断面図 S：1/100

UW
宇和建築設計事務所 / UWA,LLC
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院2-1-36
TEL 022-706-2683 / FAX 022-774-2039 / MAIL uw@uwaa.co.jp
一級建築士事務所宮城県知事登録　第22210213号

管理建築士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	工事名称	令和7年度　下高城集会所建築工事	番号	A — 2202
代表設計士	宇都宮　俊 / Shun Utsunomiya 一級建築士　第369398号	図面名称	断面図-2	縮尺	1:100 (A3)
担当設計士	白鳥　大樹 / Daiki Shiratori 二級建築士　第17398号	設計段階	基本・実施・確認・現場・竣工	日付	2025.01.28